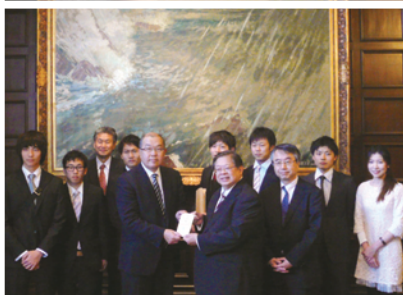


Juntenndo

順天堂だより



順天堂大学の近況報告より

法人だより 1

■ 順天堂の由来	1
■ 学是・理念	2
■ 順天堂から世界へ7名!! -ロンドンオリンピック出場決定のお知らせ-	3
■ 医学部・医学研究科の過去から現在、そして未来／医学研究科長・医学部長 新井 一	4
■ 医学部附属順天堂医院の過去から現在、そして未来／順天堂医院院長 高崎芳成	8
■ 故石井昌三 元理事長法人葬 挙行 ～弔辞～／理事長 小川秀興	10
■ 順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定締結／医学研究科長・医学部長 新井 一	12
■ 駐日タイ国大使公邸訪問・大洪水に対する御見舞金の贈呈／国際交流センター 重松和久	13
■ 神経学 服部信孝教授 文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞	14
■ 心臓血管外科学 天野 篤教授 松戸市民栄誉賞受賞	15
■ 順天堂大学医学部附属浦安病院 院長就任にあたって／浦安病院院長 吉田幸洋	16
■ 順天堂大学 卒業式・入学式挙行／総務部長 鈴木一雄	17
■ 平成24年度 順天堂学祖祭／企画調査室室長補佐 各務 正	22
学祖祭講演「順天堂三代目堂主佐藤進の活躍～李鴻章、大韓医院～」／医史学研究室特任教授 酒井シヅ	25
■ 学校法人順天堂役員・評議員	28
■ 教授就任	29
■ 新入職員講習会・歓迎会開催／人事部長 馬場子孝	32
■ 主なる人事異動／人事部長 馬場子孝	33
■ 主要行事予定	37
■ 訃 報	38

大学だより 39

■ 医学部近況	■ 順天堂医院近況	■ 静岡病院近況
■ 浦安病院近況	■ 越谷病院近況	■ 高齢者医療センター近況
■ 練馬病院近況	■ スポーツ健康科学部近況	■ 医療看護学部近況
■ 保健看護学部近況		

同窓会だより 58

■ 医学部同窓会	■ スポーツ健康科学部同窓会(啓友会)	■ 看護学部同窓会
----------	---------------------	-----------

父母会だより 62

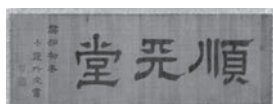
■ 医学部父母会	■ スポーツ健康科学部保護者会(さくら会)	■ 保健看護学部保護者会
----------	-----------------------	--------------

後援会だより 65

■ 医学部後援会	■ スポーツ健康科学部後援会(桜順会)
----------	---------------------

ひろば 67

■ 平成23年度順天堂大学医師会・医学部ベストチューター賞／医療連携室課長補佐 中島宏明	67
■ 新入生キャンプを終えて／医学部 1年 山田 泰平	67
■ 順天堂大学関係資料ご提供のお願い～順天堂史編纂にあたって～／医史学研究室特任教授 酒井シヅ	69
■ 編集部からのお知らせ	69



2013年 順天堂創立175周年記念

開塾：1838年（天保9年）

順天堂の由来

順天堂は、天保9（1838）年、学祖・佐藤泰然が江戸・薬研堀（現在の東日本橋2-6-8）に設立したオランダ医学塾に端を発し、いまに繋がる日本最古の西洋医学塾です。幕末、攘夷・洋学排斥の動きもあり、江戸より下総佐倉（現在の千葉県佐倉市）に移った順天堂には、全国各地より百数十名を超える俊英が参集し、「日新の医学、佐倉の林中より生ず」といまに語り継がれるが如き、西洋医学研究・教育、そして臨床医学実践の場となりました。

順天堂第二代堂主・佐藤尚中は、明治2（1869）年、明治政府の要請を受け、佐倉より多数の門下生を率いて上京し、宮内省「大典医」・文部省「大学大博士」を拝命し、大学東校（東京大学医学部の前身）の初代校長として近代医学教育確立に尽力し、西洋医学教育最高学府（東京帝国大学医学部）の礎を固めました。

第三代堂主・佐藤進は、明治2（1869）年、明治政府発行の旅券第一号をもってドイツに留学し、明治7（1874）年、アジア人として最初のベルリン大学医学部卒業生となりました。ドイツより帰国した佐藤進は、明治8（1875）年、順天堂医院長・第三代堂主となり、在任中に陸軍本病院長や日清・日露両戦役の陸軍軍医総監も兼務し国難に対峙し、そして明治18（1885）年、東京大学医学部附属第一医院及び第二医院の院長をも兼任するなど、日本におけるドイツ流医学教育普及のリーダーとなりました。

その後、第四代堂主・佐藤達次郎は、順天堂医学専門学校を開設し、第五代堂主・有山登は、順天堂医科大学・医学部へと発展させ、昭和26（1951）年、体育学部（現在のスポーツ健康科学部）を併設し、更に昭和34（1959）年、大学院医学研究科を開設し、昭和46（1971）年、大学院体育学研究科（現在の大学院スポーツ健康科学研究科）を開設するなど、順天堂大学へと発展させました。

看護師養成の歴史も古く、116年余を経ております。明治29（1896）年、看護婦講習所を開設し、准看護婦学院、医学部附属高等看護婦学校、高等看護学校、看護専門学校、医療短期大学（3年制）、そして平成16（2004）年、第3の学部として医療看護学部（千葉県浦安市）を改組・開設しました。平成19（2007）年、大学院医療看護学研究科を開設し、また平成22（2010）年、第4の学部として保健看護学部（静岡県三島市）を開設しました。

順天堂は、総病床数3,199床という日本最大規模の大学附属病院群を配置して強固なネットワークを形成し、先進医療、地域医療、救急医療、周産期医療、高齢者医療、精神医療、ガン治療など、国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性と、総合力に秀でた医育機関として人材育成に努めています。

以上のように、順天堂は4学部3研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療を通じて社会貢献を進めています。



順天堂の「順天」は、中国の古典「易経」にある「順天応人」（天の意志に順い、人々の期待に応える）と、孟子の言葉の「順天者存。逆天者亡」（自然の摂理に順うものは存続して栄え、天の理法に逆らうものは亡びる）に由来します。

学是は「仁」、理念は「不断前進」であり、校章は「仁」を意匠化したものです。

2011年5月15日（創立記念日）

学校法人 順 天 堂

理 事 長 小 川 秀 興

新病棟建設後の本郷キャンパスの様子。
学校法人順天堂では、175周年記念事業の一環として、
本郷キャンパス・ホスピタル再編事業を進めています。



順天堂の「順天」は、中国の古典「易経」になる「順天応人」（天の意思に順い、人々の期待に応える）と孟子の言葉の「順天者存 逆天者亡」（自然の摂理に順うものは存続して栄、天の理法に逆らうものは亡びる）に由来します。

学是

仁

人在りて我在り。他を思いやり、慈しむ心。これ即ち『仁』

理念

不断前進

現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける姿勢のこと。

医師として最善の医療を提供するため努力し、患者さんやご家族の思いや苦しみを理解する心・感性をもつ人を育成していくこと。

この理念は、自由な競争環境にこそ活気ある教育研究活動が展開されるという建学の精神を伝承し、旧設医大の中で全くといってよい程に学閥がなく、優秀な人材であれば出身校を問わず任用するという学風が確立されています。順天堂に集う者のすべてが、この学風を理解、享受し、自己研鑽と競争原理と相互信頼のもとに順天堂人としての連帯感が涵養され、高い倫理観に基づく教育研究活動が実践されています。

順天堂から世界へ7名!! ーロンドンオリンピック出場決定のお知らせー

5月4・5日に行われた体操のロンドン五輪代表最終選考会を兼ねたNHK杯にて本学スポーツ健康科学部1年の加藤凌平選手と本学卒業生の田中佑典選手（H24年卒・現コナミ所属）の両名が代表に決定いたしました。

また、陸上日本選手権200メートルの男子では高瀬 慧選手（H22年卒・現富士通所属）が20秒42で初優勝、初の五輪代表に決定し、3位の高平慎士選手（H19年卒・現富士通所属）の五輪出場も日本陸上競技連盟より発表がありました。同選手権50km競歩では、山崎勇喜選手（H18年卒・現自衛隊体育学校所属）が派遣標準記録を突破する見事な記録で優勝し五輪代表に決定しました。競歩では昨年の世界選手権にて鈴木雄介選手（H22年卒・現富士通所属）、森岡紘一郎選手（H20年卒・現富士通所属）の両名もオリンピック出場を決定しています。選手たちへの力強いご声援をお願いいたします。

学校法人順天堂は健康総合大学として、選手の育成等を通じ、スポーツの振興と運動を通した予防医学の発展に貢献して参ります。

日本代表を決めた本学の学生・卒業生たち（H24.6.12現在）



加藤凌平 体操／団体（床）スポーツ健康科学部1年



高瀬 慧
陸上／200m 走
H23年卒
（富士通）



高平慎士
陸上／200m 走
H19年卒
（富士通）



田中 佑典
体操／団体（鉄棒）
H24年卒
（コナミスポーツ & ライフ）



鈴木 雄介
陸上／20km 競歩
H22年卒
（富士通）



森岡 紘一郎
陸上／50km 競歩
H20年卒
（富士通）



山崎 勇喜
陸上／50km 競歩
H18年卒
（自衛隊体育学校）

医学部・医学研究科の過去から現在、そして未来

医学研究科長・医学部長
新井 一



新井 一 医学研究科長

現在の順天堂は、医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部の4学部と、医学部に属する6附属病院、すなわち順天堂医院（1,020床）、静岡病院（552床）、浦安病院（653床）、越谷病院（226床）、東京江東高齢者医療センター（348床）、練馬病院（400床）からなります。順天堂大学の医学部の定員は、医師不足対策の任を負う文部科学省の指導に従い、ここ数年の間に従来の90名から平成24年度は121名にまで増員となりました。

また、医学研究科博士課程の定員は100名であります。毎年100%を超える充足率を誇っており現在4学年で482名の大学院生が在籍しています。初期研修医に関しては、順天堂医院、静岡病院、浦安病院、練馬病院の4病院が研修受け入れ病院になっており、平成24年度は順天堂全体で117名の研修医を迎え入れることになりましたが、医師臨床研修医制度が導入された平成16年度から現在までの研修医数は合計1,115名を数えます。このように順天堂は、名実共に全国でもトップクラスの医療機関に成長を遂げましたが、今回はその現状と課題について述べることにいたします。

【医学部】

（1）入学試験

平成24年度の医学部入学試験では、定員121名に対して4,335名の志願者を集め倍率は35.8倍に達しました。入試の方法は、一般試験、センター・一般独自併用、センター試験のみの3パターンがあり、さらに東京都地域枠10名、新潟県地域枠2名、千葉県地域枠1名（入学後に選抜）の学生が入学者には含まれます。順天堂の6年間の学納金は私立医科大学・医学部では最も低い値に設定されているということもあり、多くの優秀な学生を迎え入れることができていますが、同時に入試方式を工夫したことにより、極めて多様なバックグラウンドを有する学生の選抜が可能となりました。

（2）学生教育

現在、順天堂の一般教養においては、授業の選択制を取り入れて学生の自由度を尊重しつつ、感性豊かな教養人の育成に力を入れているところであります。特に、世界に伍していけるような医療人を育てるとのコンセプトに基づき、英語教育には大いに力を注いでいます。TOEIC、TOEFLについては進級のための評価にこれを用いており、入学直後と学年の後半にその受験を



センチュリータワーに設置された新しい教室
緩い段差のなかに机が配置され、机には学生用に小型のモニターとマイク
ロフォンが備えられている。

課することにより、学生自らに学習効果を認識してもらうようにしています。ここ数年の間に医学教育は、モデルコアカリキュラムの導入、客観的臨床技能試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) や共用試験 CBT (Computer Based Testing) さらには PBL (Problem Based Learning) 形式の授業の実施など、大きく変容してまいりました。平成 21 年に順天堂が取得したセンチュリータワーに、この度、学部学生および大学

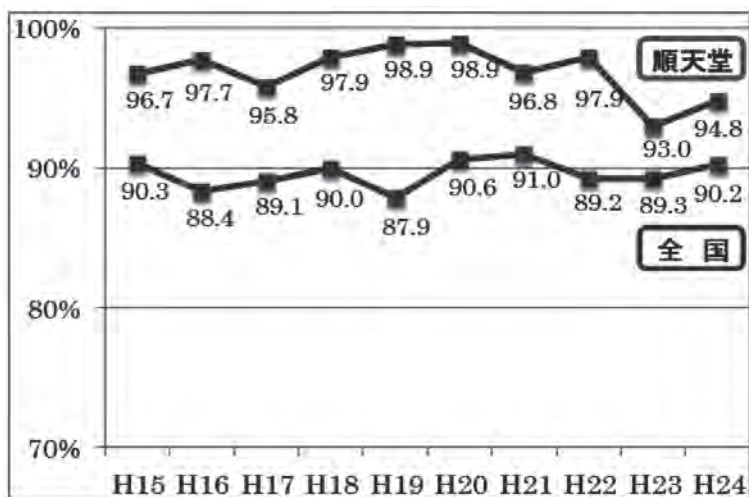


センチュリータワーに設置された learning common
学生、教員が自由に交流することのできる場所を提供する。

院生のための新たな教室を設けることになりました。ICT を駆使した新教室では、従来の大教室型ではない様々な形態での授業の実施など、医学部の学生が自ら学ぶこと (active learning) を目途に医学教育のあり様を大きく変えることを意図しております。また、学生が休み時間や放課後に自由に集える learning common と称するスペースを設けました。そこでは、IT 機器の使用も可能ですし、必要に応じて小グループの講義もできるように配慮がされています。さらに今後は、e-learning や iPad を活用した講義の導入も検討されていますが、実際のところセンチュリータワーの新教室での新しいタイプの授業を展開するためには、我々教師の faculty development (FD) が必須であることを認識しているところです。

(3) 国家試験

平成 23 年 2 月に実施された第 106 回医師国家試験は、新卒者、既卒者含めた合計の合格率が 94.8%、全国 19 位の成績となりました。過去 5 年間では全国 3 位、10 年間では 2 位という成績ですが (図 1)、昨年と今年の結果は順天堂にとってはとても満足できるものではなく、来年こそはと捲土重来を期しているところです。



〔図1〕 医師国家試験合格率推移

「国家試験をものともせず、知性・感性豊かな医療人を育てる」のモットーはいささかも揺らぐことはありませんが、国家試験を念頭においた上で5年生の臨床実習、6年生の講義形態の有り様を含め順天堂における医学教育全般の再点検を行っています。ここにおいても、やはり我々教員の教育に対する熱意が重要であり、これを学内にいかに周知徹底することができるのかが試されるものと認識しています。

【医学研究科】

(1) 入学者数の変遷、学位授与状況

医学研究科の入学生数は過去10年間順調に増加しており、平成24年度については138名を数え、4学年合計の大学院生は482名にのぼります(図2)。この大学院生数は、全国的にみても私立医科大学・医学部では第一位、国公立大学を含めてもトップテンに入る数であり、大学院が研究推進のエンジンだとすれば、順天堂のポテンシャルの高さを示すデータになると考えています。

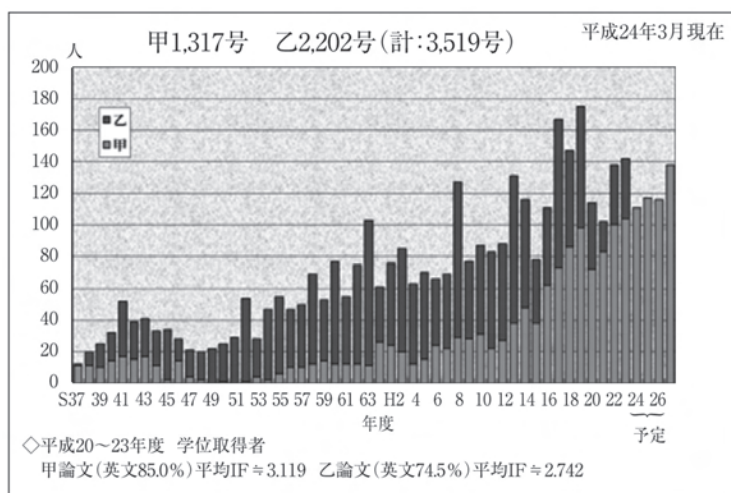


また、平成24年度の138名の入学者のうち、23名が国立がん研究センターの社会人大学院生となっています。本年1月、国立がん研究センター嘉山孝正理事長(当時)と小川秀興理事長出席のもと調印式が執り行われ、順天堂大学とがん研究センターとの連携大学院に関する協定が締結されました。

この協定締結を受けて23名を受け入れましたが、同時にがん研究センターの指導医師にも順天堂の客員教員になってもらい、大学院生はがん研究センターで働きながら学位取得を目指すことになります。経年的な学位授与状況をみると、年々大学院修了者に与えられる甲論文の比率が上昇し



ており、またその impact factor の平均は 3.0 を超え、大学院は正に質・量ともに充実したものになってきたといえます（図 3）。



【図 3】順天堂大学博士(医学)学位授与者数推移

(2) 今後の展望

医学研究科では、修士課程を平成 25 年 4 月に開設することを目標に、現在準備を行っているところです。この修士課程では、医学部以外の学部卒業者を文系・理系を問わず広く受け入れ、これらの学生に対して基礎・臨床医学に関する基本的な事柄を体系的・集中的に教育することを目指します。その結果、医学と医学以外の学問大系とを結びつけることのできる新しいタイプの研究者・教育者あるいは高度専門職業人を育成することが可能になると期待しているところです。本修士課程修了者については、医療の現場や薬剤・医療機器メーカー、さらには医療行政の現場などにおいてその需要が見込まれるものと考えています。一方、医学研究科博士課程に関しては、ここ数年定員を大幅に越える入学者を受け入れてきたことから、定員を現在の 100 名から 120 名に増員することを検討中です。

平成 24 年 4 月に理化学研究所野依良治理事長と小川秀興理事長出席のもと、連携・協力の推進に関する機関間基本協定が調印されました。昨今の本邦における医療関連産業をみると、薬品・医療機器ともに大幅な輸入増になっており、日本の研究力が社会ニーズの高い医薬品や医療機器の実用化に結びついていない現状が浮き彫りになります。このような現状を打破すべく今回の協定調印に至った訳ですが、理化学研究所の絶大な研究力によって生み出されるシーズと、あらゆる分野において豊富な臨床症例を誇る順天堂発の現場に直結したニーズとのマッチングを図り、創業、新規医療機器の開発に結びつけたいと考えています。（詳細は 12 ページ参照）

以上、医学部・医学研究科の現状と課題について述べました。紙面の関係上全ての事項に触れることはできませんでしたが、現状に満足することなく卒前卒後教育の充実、大学院実質化の推進、研究力のバージョンアップなどの課題に、小川秀興理事長・木南英紀学長のご指導をいただきながら取り組んでいく所存であります。皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

医学部附属順天堂医院の過去から現在、そして未来

順天堂医院
院長 高崎 芳成



高崎 芳成 院長

平成 23 年 4 月より新井一前院長の後任として 1 年の任期で院長に就任いたしました。東日本大震災直後の就任で、その対応も含めて、あたふたとした毎日を過ごすことになりましたが、小川秀興理事長をはじめとする法人首脳部、教授会ならびに診療委員会の諸先生、さらに看護部や事務部などあらゆる職域の皆様から適切なお指導とご支援を賜り、その任期を全うすることができました。皆様のお陰とこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、この度は平成 24 年 4 月より、引き続きさらに 2 年の任期で院長を拝命いたしました。ここでこの 1 年を通して院長としての職務を通して見た、順天堂医院の現況と課題について所感を述べたいと思います。

まず第 1 に、当院は、学是である“仁”の精神のもと、患者本位の立場に立ち、各診療部門およびその他の職域の人々が協力し、最善の医療を実践すべく不断の努力を続け、その結果、高い評価を受けていると実感いたしました。院長として全職員に感謝すると共に、皆それを順天堂人の“誇り”として共有し、より一層の発展を目指して頂きたいと思います。

一方、新たな課題もございます。皆様もご存知のように、学校法人順天堂は創立 175 周年記念事業として本郷キャンパス・ホスピタルの再編を行っています。現在、昨年 10 月 28 日の起工式の後、現存の 2 号館を中心に、一部 1 号館と 3 号館の機能を取り込む B 棟の建設が進められています。私ども病院のスタッフに嫁せられた最も重要な課題の一つは、この B 棟の第 1 期工事、さらにそれに引き続く D 棟、C 棟および B 棟の第 2 期工事の間、患者さんの皆様にご不自由をおかけすることなく、さらに一切の病院機能を落とすことなく最良の医療を提供することにあると認識しています。

現在、順天堂医院には 1 日 3,900 人以上の外来患者さんが受診され、1,020 床の病床は平均 93% で稼働しています。外来診療を行っている 1 号館は本来 1 日 2,500 から 3,000 人ほどの患者さんの受診を想定して設計されました。職員が一丸となってより効率的に診療を行うべく日々努力を重ねていますが、受診手続きをされてから薬を受け取ってお帰りになるまでの待ち時間が時として長くなってしまうことが見受けられます。また、多くの患者さんが必要とする検査の予約についても、時として患者さんのご都合に合わせるできない場合もあります。まさに、これらの問題を解決するための手段として新棟の完成が大いに期待されている所です。しかし、B 棟が稼働するにはまだ約 2 年の年月を要し、この間の待ち時間短縮を現在、各診療科、看護部、薬剤部および事務部の職員が各部門の工夫に加え、一致団結しながら喫緊の課題として取り組んでいます。

工事は、患者さんにとって何かとご迷惑をお掛けする要因となりがちですが、これが明日の順天堂医院が飛翔する輝かしい未来の象徴のように感じて頂けるよう努力いたします。

この外来診療を効率良く行って行くためのもう一つの重要な課題は紹介率とそれに伴う逆紹介率のアップと考えています。特に、逆紹介率を上げることがむしろ多くの患者さんを

順天堂医院に紹介して頂くことに繋がると考えます。医療サービス支援センターを充実させ、この問題に積極的に取り組んでいく所存であります。

最後に我々が取り組まなければならない課題として学生および研修医の教育について取り上げたいと思います。今日の医学教育ではこれまでの座学に変わって現場での実践的な教育が求められています。それに



再編計画（3号館部分）のイメージ

対応して国家試験でもただ教科書を読んでも回答できない実践的な知識を求める問題が出題されています。今後、ECFMGの受験資格をクリアするために、国際基準に見合ったより長期に渡るベッドサイド実習が行われるようになりますが、そこでいかに優れた臨床実習を提供できるかが大学としての評価に関わります。そのような中で、病院の果たす役割は益々重要になってきています。我々は、診療科長を始めとして全教員が積極的にかかわって学生のモチベーションを高め、より良い教育を行なうことを目指します。また、研修医の教育についてもより良いシステムの構築と個々の教員の在り方について検討し、教授から医局員、そして研修医から学生に至る強固な屋根瓦方式による院内教育の充実化を目指す所存であります。

以上、順天堂医院における現況と今後の課題について述べました。今後も全職員と力を合わせ、学長および医学部長のご指導を賜りながら順天堂医院のさらなる発展に貢献する所存でありますので何卒宜しくご支援のほどお願い申し上げます。



本郷キャンパス・ホスピタル再編事業による新病棟建設後のイメージ

故 石井 昌三 前理事長法人葬 挙行

2月10日(金)、小川秀興理事長を葬儀委員長として、故石井昌三前理事長(1月1日ご逝去)の法人葬が青山葬儀所においてしめやかに執り行われ、教職員をはじめ学内外から約900名が参列し、最後のお別れをしました。

法人葬は、鈴木総務部長の開式の辞で始まり、祭壇の故人の御霊に参列者全員で黙祷を捧げたのち、小川秀興理事長をはじめ、木南英紀学長、菊池晴彦神戸市民病院機構理事長、川崎明德川崎学園理事長の4名の方がそれぞれ弔辞を読み上げられました。続いて弔電が披露され、小川秀興葬儀委員長によりご挨拶がなされました。その後参列者による献花が行われ、多くの方々が故人の死を惜しむ中、法人葬は午後3時に終了しました。

弔 辞

理事長 小川 秀興

石井昌三先生、本日、ここに学校法人順天堂による法人葬をもって、前理事長 故 石井昌三先生の御霊を祭られるにあたり、つつしんでご霊前に哀悼の意を捧げます。

石井昌三先生は、昭和22年9月京都大学医学部を卒業され、昭和25年4月三重県立医科大学医学部助手、昭和29年2月京都大学医学部助手になられました。昭和30年6月から2年間米国シカゴ大学へ脳神経外科学研究のために留学され、帰国後母校で6年ほど講師を務められた後、昭和38年7月大阪日赤病院脳神経外科部長を経て、41歳という若さで米国シカゴ大学脳神経外科助教授に就任、教育、研究、診療に研鑽されました。

帰国後、昭和43年4月から、本学医学部脳神経外科学初代教授、昭和59年本院院長に就任され、同時に法人理事・評議員となり、その後、順天堂創立百五十周年記念事業の一環として、昭和61年から本館建設本部長の要職を務め優れた指導力により、現在の一号館が落成いたしました。

昭和63年には学長、平成4年に理事長に就任され、その後平成11年には私立医科大学協会会長を歴任、平成16年3月に理事長を退任されるまで12年の長きにわたり順天堂の発展に多大なる貢献をなされました。

先生の主な教育研究活動は、脳神経外科学に関する卓越した研究成果を礎とする専門知識を基に、本学の学生教育と研究指導はいうに及ばず日本の脳神経外科学の領域で、多くの臨床医を育成し、斯界の発展向上に多大なる貢献をなされました。

また、先生は米国に於いて、頭部外傷の臨床的・基礎的研究に係る外傷脳に発生する脳浮腫と脳腫脹の病態成立機序を深く研究し、その成果は現在でも高い評価を受けております。先生に



よってこのような研究業績が本邦にもたらされたことは、欧米に比し遅れていた本邦の脳神経外科学を、臨床面及び研究面で飛躍的發展を遂げさせた要因となりました。

学会関係では、多数の脳神経外科学会の要職を歴任され、特に第5回国際脳神経外科学会では、事務局長を務め 3,000 人余の国内外の参加者が集う国際学会を成功裏に納め、世界脳神経外科学会連合の要職を 8 年の長きにわたりお務めになられたご功績により、昭和 56 年には、世界脳神経外科学会連合の名誉会長に選出されております。これらの功績が高く評価され、平成 13 年秋の叙勲では勲二等旭日重光章を受章されました。

先生は、常々「忠恕」というお言葉を用いられました。この忠恕ということは、論語の一節にある「夫子の道は忠恕のみ」から引用されております。つまり賢者たるもの、真心をもち且つ思いやりのある行動をとり、そして多くの者が幸せになることを意味している言葉でございます。この言葉の通り、先生の常日頃からの姿勢は、私たちが温かく見守って下さり、ただ優しいだけではなく、時には厳しくご指導頂きましたことは私ども一同大変感謝いたしております。

来年、学校法人順天堂は創立 175 周年を迎えることとなりますが、新しい健康総合大学として更なる發展を期して創立 175 周年記念事業に邁進して参ります。

私どもは、先生が掲げられた忠恕の精神をもちまして、今後も精励し、不断前進してまいる所存です。それが伝統ある順天堂、医学の道に集う後進のつとめであり、先生の御霊を慰める唯一の道であると思います。

ここに謹んで先生にお誓い申し上げ、ご生前のご偉業をたたえ、安らかな永久の眠りを心よりお祈りいたしまして、お別れのことばといたします。



順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定締結

—高精度な疾患予測マーカーを共同開発し、先制・早期医療の実現を目指す—

医学研究科長・医学部長

新井 一

学校法人順天堂と理化学研究所は、両機関の包括的な連携・協力関係を推進するために「連携・協力の推進に関する基本協定」を締結しました。協定締結の調印式が、小川秀興順天堂理事長、野依良治理化学研究所理事長、その他関係者の出席のもと平成24年4月26日に理化学研究所東京連絡事務所で執り行われました。

理化学研究所は、日本で唯一の自然科学の総合研究所として生命科学の進展を戦略的に主導し、社会知創成事業のもと「創薬・医療技術基盤プログラム」を中心とした独創的な研究開発に加え、医療ニーズを把握してニーズ主導型の研究を推進してきました。その研究内容はまさに世界トップクラスであり、同時に多くの研究者を排出し本邦の科学の発展に多大なる貢献をしてきました。

一方、順天堂は4学部・3研究科・6医学部附属病院からなり、6病院合計の総ベッド数3,199床、1日外来患者数 約10,000人、1日入院患者数約3,000人、年間手術件数34,700件にのぼり、全国でも有数の病院群を擁しています。本部・順天堂医院を文京区本郷・湯島の地に、江東区に順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬区に順天堂練馬病院など3病院を東京に、他の附属病院を静岡（伊豆）・千葉（浦安）・埼玉（越谷）に配し、地域医療の拠点としても重大な責務を担っています。建学以来174年、学是「仁」、理念「不断前進」の下、最先端の技術・医療機器・医薬品を駆使しつつ最新の医療を実践してきましたが、基礎医学と臨床医学をつなぐ大学として、特にその臨床活動の高さには定評のあるところです。また、順天堂は従来より超音波診断装置の開発と臨床応用、小児外科領域・輸液法の確立、アトピー・アレルギーに関連する皮膚バリア機能の解明とその臨床応用、消化管内視鏡技術の開発と臨床適用など新たな医療技術の発展にも大きな役割を演じてきました。さらに、このような臨床医療の普及を目途に、中国・韓国・タイ・インドネシアなどアジアを中心に諸外国における人材育成にも尽力してきました。

一方で、最近の基礎及び臨床医学の急速な進歩に伴い、シーズを創出する研究サイドに臨床上のニーズが十分に伝わっていないなどの理由から、順天堂ひいては本邦で行われている臨床研究全般が、社会ニーズの高い医薬品・医療機器の実用化に必ずしも十分に結びついていないといった状況があります。このような状況を劇的に変えるべく、順天堂と理化学研究所との間で「連携・協力の推進に関する基本協定」が締結されるに至りました。今回の協定が、現状打破のブレークスルーになることが大いに期待されることです。

（本学からの主な出席者：小川秀興理事長・木南英紀学長・新井一医学部長・富野康日己臨床研究センター長・佐藤信紘理事）



駐日タイ国大使公邸訪問・大洪水に対する 御見舞金の贈呈

国際交流センター
重松 和久

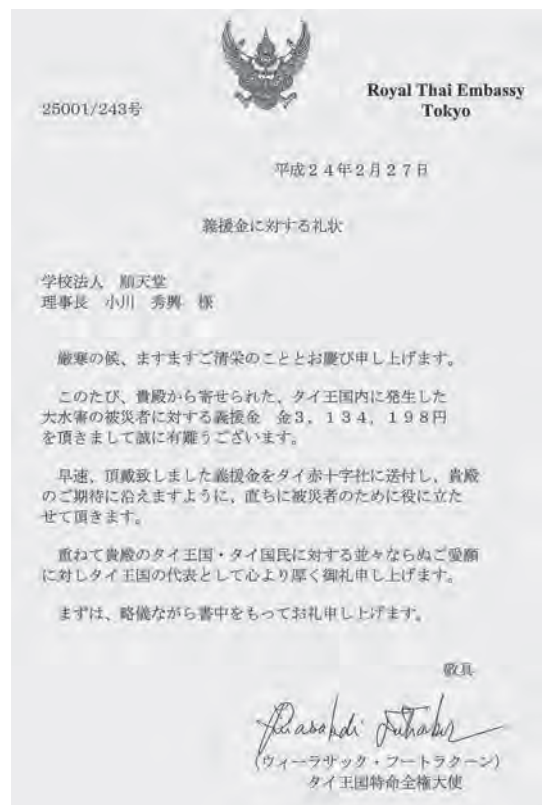
2012年2月24日（金）駐日タイ国大使公邸にて、フートラクーン駐日大使へのタイ国大洪水に対する義援金の贈呈が行われました。本学から新井一医学部長、熱帯医学研究会副団長の高橋和久呼吸器内科学教授、熱帯医学研究会の3年生6名（松田浩成、荒井美輝、宮平憲、宮原怜、毛利晃大、高野謹嗣）、皮膚科学講座留学生 Chanisa Kiatsurayanon（タイ）、及び各務部長、塚口、重松が同席しました。

新井医学部長から本学教職員（4学部6病院）分を、学生代表の松田君からは熱帯医学研究会分をフートラクーン大使にお渡し致しました。

新井医学部長から、小川秀興理事長からのお見舞いのお言葉と、現在では被災もかなり改善されたとの報道があるが、一日も早い復興を祈念し、心からお見舞い申し上げたい旨大使に伝えられました。

フートラクーン大使からは、タイ国を代表して大学と熱医研の学生が集めた義援金に対して、お礼を申し上げたい、また現在大使公邸に隣接して建設中の新しい大使館が完成した際には是非とも小川理事長をご招待したい旨、お話がありました。

記念撮影の後、大使自ら公邸をご案内頂きました。訪問は終始和やかで熱医研の学生もタイからの留学生 Chanisa さんも積極的に大使とのコミュニケーションをとっていました。後日、フートラクーン大使から義援金に対するお礼状がありました。



神経学 服部信孝 教授 文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞

本学医学部神経学の服部信孝教授は平成 24 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門）を受賞致しました。科学技術賞は文部科学大臣が我が国の科学技術分野において顕著な功績をあげた者を対象として表彰するものです。服部教授のパーキンソン病発症機序解明に関する業績が認められ、このたびの受賞となりました。表彰式は平成 24 年 4 月 17 日（火）、文部科学省 3 階講堂にて行われました。



業績内容

パーキンソン病発症機序解明

パーキンソン病は加齢が重要な危険因子であり、今後更に患者数が増加することが予想される。その病態にアルツハイマー病病理がオーバーラップすることが判明しており、その病態解明はパーキンソン病のみならず他の神経変性疾患の病態解明に繋がる。対症療法が発達しているものの、生涯薬物療法から解放されことなく根本治療や進行阻止治療の開発が望まれている。本研究ではパーキンソン病研究の戦略として単一遺伝子異常に伴う遺伝性パーキンソン病研究がパーキンソン病全貌解明において有効な戦略であることを明らかにしている。

本研究により神経変性疾患に観察される封入体形成のメカニズムにタンパク分解系の関与を示したということで神経科学領域に貢献した。更にミトコンドリア機能低下が遺伝性や孤発性に拘わらずパーキンソン病に共通して存在し、特に遺伝性ではミトコンドリア消去システムであるミトファージに関与することが分かった。この発見はミトコンドリアのコピー数や品質管理の必要性を提示するものであり、パーキンソン病の新規治療ターゲットを提案するものであり、進行阻止治療法の開発や病態解明に寄与することが期待される。

心臓血管外科学 天野 篤 教授 松戸市民栄誉賞 受賞

天皇陛下の冠動脈バイパス手術で執刀チームの中心となった本学医学部心臓血管外科学の天野篤教授が、松戸市より市民栄誉賞を授与されました。授与式は天皇陛下が日常公務に復帰された後の平成24年5月9日、松戸市役所にて行われました。

天野教授は松戸市内の病院に11年間勤務していた経験もあり、本郷谷健次市長は記者会見で、「難しい手術を成功されたことは松戸市民として誇り」と述べられました。

天野教授は、心臓を動かしたまま迂回用の血管をつなぐオフポンプ術式の冠動脈バイパス手術の第一人者とされており、これまで約5,500件の心臓手術を手がけています。このうち約4,000件は冠動脈バイパス手術で、オフポンプ手術は約3,200件の実績があります。その実績が高く評価され、天皇陛下の執刀医に天野教授が起用され、順天堂大学医学部と東京大学医学部とが連携した診療体制での対応となりました。

また、松戸市の新東京病院には1991年4月から2001年3月末まで在籍していましたが、現在も同病院で週1回程度勤務しています。今回は天皇陛下の執刀に加え、松戸市の地域医療の発展への貢献などが高く評価されました。



表彰式の様子



Photo : 読売新聞社

天皇陛下の冠動脈バイパス手術後の医師団による記者会見

順天堂大学医学部附属浦安病院 院長就任にあたって

医学部附属浦安病院
院長 吉田 幸洋



吉田 幸洋 院長

学校法人順天堂の小川秀興理事長ならびに順天堂大学医学部附属浦安病院の高森建二前院長のご推挙により、本年4月1日付けで、順天堂大学医学部附属浦安病院の院長の職を拝命いたしました。身に余る光栄に存じますとともに、責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

順天堂大学浦安病院は、順天堂医院、伊豆長岡病院(現在の静岡病院)に続く3番目となる順天堂大学医学部の附属病院として1984年に現在の浦安市富岡の地に病床数250床で開院しましたが、その後、浦安市の発展とともに増築・増床され、2004年には150床の病床と血液浄化センターや救命救急センターなどが新設された新棟がオープンし、現在の病床数は653床となりました。特に、高森前院長が就任した2005年から本年3月までの間には、院長の強力なリーダーシップの下に、救命救急センターおよびICUの増床、がん治療センターの開設、手術室の増室を含む、いわゆる三大プロジェクトが完了し、さらに2011年1月にはNICU6床、GCU12床、MFICU3床からなる周産期母子医療センター(地域周産期母子医療センター)もオープンする運びとなりました。また本年1月からは小児外科の診療も開始したことによって、順天堂医院と同じすべての診療科を備えるまでになりました。さらに、本年度からは、千葉県民の将来の高齢化対策の一環として、132床の増床が許可されました関係で、小川理事長初め理事会のご許可をいただきました新館の建設という大きな目標に向かって準備を進めているところでございます。これが完成いたしますと総病床数は785床となり、千葉県でも有数の総合病院となります。

このように発展を続けてきました浦安病院でしたが、昨年の3月11日に発生した東日本大震災におきましては病院敷地の液状化による地盤沈下によって上下水道等のライフラインが被害を受け、一時は診療継続も困難ではないかと考えられましたが、小川理事長からの叱咤激励と順天堂医院ならびに高齢者医療センター等近隣の順天堂大学医学部附属病院からの支援を受け、教職員特に事務系職員の頑張りによって何とか診療を継続でき、被災地浦安の地域医療に貢献することができました。

私は、浦安病院赴任以来、浦安病院に勤務する看護師ならびに事務系職員を含む教職員の順天堂を思う気持ちと団結力の強さを感じてはおりましたが、東日本大震災の被災によって、さらにその思いを強くしました。

順天堂大学浦安病院は、地元浦安市や市川市を含む千葉県の東葛南部医療圏における地域の基幹病院であるとともに、6つの順天堂大学医学部附属病院の1つとして、高度で専門的な医療を提供することはもちろんのこと、医育機関として医学部学生や研修医等の教育を担当する責務も有しております。順天堂大学浦安病院の目指すところは、地域の住民の方々のために最善を尽くし、高度で安全な医療を提供することにあります。特に重要視していることは患者さんに対し思いやりのある優しい病院ということであり、もし具合が悪くなったときにはぜひまた診てもらいたいと思われるような病院でありたいと願っております。

今後は院長として、副院長および院長補佐とともに診療部、看護部および事務部をまとめ、順天堂大学浦安病院の発展ひいては順天堂全体の発展に寄与できるように努力する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

順天堂大学 卒業式・入学式挙行

総務部長
鈴木 一雄

医学部・スポーツ健康科学部・医療看護学部 合同卒業式

3月16日（金）、グランドプリンスホテル新高輪において、平成23年度順天堂大学医学部・スポーツ健康科学部・医療看護学部合同卒業式が執り行われました。医学部卒業生89名、スポーツ健康科学部卒業生326名、医療看護学部卒業生196名が順天堂の地から新たに旅立ちました。

卒業式では小川秀興理事長より祝辞が述べられました。小川理事長は、この順天堂大学で共に学び、同じ年に巣立ってゆく者同士が互いに共有すべき知識としてそれぞれの学部の成り



卒業式の様子

立ちや創設の経緯についてお話しされた後、本学が日本初の国際学会である「国際スポーツロジ学会」の発足により、世界に発信力がより一層強化されたこと、ならびに地域医療にも大きく貢献していることを強調されました。そして、卒業生に向けて「世界に伸びていく存在感のある人間になるためには、①世界を視野に国際性豊かに自分を高める②世界の中の日本という視点を持ち、日本の文化を知り、理解を深める③自分の特徴・特性を知り、専門・得意分野を持つこと、が大切です。知識を積み、技を積み、そして知と技のみならず高く教養と感性を持って、日本、世界を牽引していく人生を歩んで戴きたい。」とお祝いの言葉を贈られました。

また、木南英紀学長は「震災後1年が過ぎましたが、復興の道は長く、再建の戦いは続きます。我々は日本の社会をどのようにしていくべきか、現実を直視する必要があります。“人ありて我あり”即ち学是『仁』の心で他者の置かれている状況を想像する、痛みを理解して対応していかなければなりません。見えない心を想像する感性豊かな人であり続けて欲しいと願っています。学生生活では、知識をインプットし、知識を統合し、使える知識に組み直し、スキルを再活性してきました。卒業後は実践の中で学んでいくことになります。社会に出ても組織の中でよい人間関係を構築していくには『仁』が必要となります。また、仕事への情熱を感じさせる『不断前進』が大切です。異なった考え方、価値観を排除せず、取り組んでいくことを伝統とした順天堂に学び、育った皆さんのこれからの活躍に大いに期待したいと思います。」と式辞を述べられました。

式典では、卒業生総代（医学部：石黒雄太さん、スポーツ健康科学部：下村薫さん、医療看護学部：細萱綾香さん）に対して卒業証書が授与され、卒業生の皆さん一人ひとり、そして列席した教職員が、卒業を祝う時間を共有しました。

最後に、卒業生総代による答辞が読み上げられ、校歌斉唱の後に閉会となりましたが、引き続き学部別に卒業証書授与、謝恩会が行われ、卒業生にとっては母校での思い出と新天地への期待に胸膨らむ記念すべき一日になったことと思います。

大学院医学研究科・スポーツ健康科学研究科・医療看護学研究科 合同修了式

3月24日(土)、有山登記念館講堂において、平成23年度順天堂大学大学院医学研究科・スポーツ健康科学研究科・医療看護学研究科合同修了式が執り行われ、医学研究科博士課程修了者103名、スポーツ健康科学研究科博士前期課程修了者53名、後期課程1名、医療看護学研究科修士課程修了者16名が新たな門出を迎えました。

修了式では小川秀興理事長より祝辞が述べられ、「日本に西洋医学・健康維持法の考えを導入したのが順天堂初代堂主の佐藤泰然先生であり、



修了式の様子

二代目佐藤尚中はこの国で初めて大博士、そして大典位の称号を与えられています。また、スポーツ健康科学研究科修士課程は我が国で2番目にできており、医学分野と共同で予防やリハビリの分野の先駆けとなっています。そして、看護師養成の学校の歴史は110年に及び、日本初の看護婦長を輩出した教育機関です。順天堂は、健康総合大学大学院として3つの分野が相互協力し情報を共有することで、質の高い大きな研究成果・結実を生んでいきます。」と述べられ、3つの研究科それぞれの成り立ちや現況について紹介された後、「今日この日を皆さんが迎えられたのは、家族や先生方、たくさんの方々の支えがあったからだと思います。その人たちの恩を忘れないように、そしてその恩は皆さんが若い人を育てることで社会に還元して戴きたいと思います。」と修了生にお話しされました。

また、木南英紀学長からは式辞が述べられました。木南学長は修了生に向け「これまで個々の専門分野を学んできた皆さんが、これからは自立した研究者としてキャリアを向上させていく一方で、後輩の研究を指導していく立場となりました。」と述べられ、キャリア向上のアドバイスとして、Kleinmann博士によるアプローチを一部紹介されました。次に「日本はこの10年間で論文数の順位が世界3位から5位となり、論文の質を示す1論文あたりの引用回数も23位まで落ちています。」と日本の科学に警鐘をならされ「修了生の皆さんには国際競争力をもった知識、開発の一端を担って活躍していくことを期待しております。」と述べられました。また、研究者の目標として、今年亡くなったウィルス学者、レナート・ドゥルベッコさんの基礎研究のお話をされました。最後に昨年の大震災について触れられ、「共に助け合う思い、共生の気持ちをもって、今回の震災は元気を失っていた日本を変える転換期にしなければならない。ここで我々は、それぞれの立場で建設的な挑戦をし、新しい日本をつくっていくことに参画したいものです。」と述べられ、「順天堂大学大学院を修了された皆さんは、日本の医学・医療、スポーツ健康科学を進展させるというだけでなく、諸外国から学ぶべきは学び、日本の良いところを再発見し、新しい日本をつくるという心構えで、それぞれの分野における指導者として健闘されんことを祈念しております。」とお祝いの言葉を贈られました。

最後に3研究科の修了生総代に学位記が授与されるとともに、3研究科長それぞれから祝辞が述べられ、修了式は閉式となりました。

医学部・スポーツ健康科学部・医療看護学部・保健看護学部 合同入学式

4月5日(木)、グランドプリンスホテル新高輪において平成24年度順天堂大学医学部・スポーツ健康科学部・医療看護学部・保健看護学部合同入学式が執り行われ、医学部新生121名、スポーツ健康科学部新生332名、医療看護学部新生200名、保健看護学部新生121名がこれから迎える新生活への期待に胸ふくらませ、順天堂大学での大学生活の第一歩をスタートさせました。



入学式の様子

小川秀興理事長、木南英紀学長をはじめ、各学部長、大学院研究科長、附属病院長、教職員等の大学・病院関係者が出席し、式典では小川理事長より祝辞が述べられました。

小川理事長は、本学の歴史と現況についてお話されたほか、新生に向けて、①リーダーたらしめとして、しっかりと学んで欲しい。②他人の立場になって考え、思い遣る心、慈しむ心を持って欲しい。③人生活せば成る、大きな夢を持って着実にその夢を達成するように浪漫ある生活を送って欲しい、とメッセージを贈りました。また、震災に関連し、「皆さんは貴重な体験をした世代だということをしかと胸に刻んで下さい。自分の意見を述べ、批判だけすることなく、今この時に自ら何をすべきか考えてほしい。この日本を医療職、あるいは看護職、スポーツ健康科学の教育・実践者として確たる存在感を示して欲しい。」と述べられました。最後に「皆さんには、この大学に学んでよかったという思いを持って、胸を張って学んで戴きたい。学校法人順天堂を挙げて皆さんを支えていきます。ご家族の方も安心して任せて戴ければと思います。新生がしっかりとした考えを持って学び、育っていくことを心より願っています。」とお祝いの言葉を述べられました。

また、式辞を述べられた木南学長は新生に対し、「順天堂大学に入学されてまずやるべきことは、順天堂大学がどういう大学であるか、しっかりと知ることです。大学とは、社会に貢献すべき技量・教養を身につけ、新しい自分を発見し、将来の夢を育む場です。大学での学問は勉強するのではなく、スタディするものです。正解そのものよりも、『疑問を放置しないで徹底的に調べる。』『様々な可能性を考えて解決法を導き出す。』という、知的な活動のプロセスを学ぶことです。パッシブではなく自らアクティブに学ぶことが基本であります。」と述べられました。最後に、「まもなく創立175周年を迎える伝統のある順天堂大学ですが、これから順天堂大学の一翼を担っていくのは若い皆さん達です。大きな変動の時代を迎えた今、順天堂大学に入学したことを転機に、学是「仁」、理念「不断前進」のスピリットのもと、基盤をしっかりとつくって自らの道を切り開き、厳しい困難を乗り越え、新しい日本をつくって欲しいと思います。」と述べられました。

なお、入学式終了後には、新生父母歓迎会が開催されました。

大学院医学研究科・スポーツ健康科学研究科・医療看護学研究科 合同入学式

4月13日(金)、有山登記念館講堂において、平成24年度順天堂大学大学院医学研究科・スポーツ健康科学研究科・医療看護学研究科入学式が執り行われ、医学研究科博士課程138名、スポーツ健康科学研究科博士前期課程53名、後期課程9名、及び医療看護学研究科修士課程17名が、順天堂大学大学院生としての第一歩を踏み出しました。

入学式では、小川秀興理事長より本学の歴史や各研究科の成り立ちについて紹介があったほか、『学は人なり』という言葉があります。学問というのは究極の人柄でもあります。また、今年は想定外という言葉が躍りましたが、皆さんは想定していく領域を切り拓いていく人たちです。学問の領域はたとえどんなに僅かでも史上初のことに挑戦していくことでもあります。帝王切開や開頭手術、超音波診断などは順天堂から始まりました。ICUやCCUという概念も順天堂から生まれています。『人ありて我あり、他を慈しむ心、仁』そのような心で医療・教育・看護を進めてきた順天堂の輝かしい歴史を受け継ぐのが皆さんです。常に前進を求めて不断前進して戴きたいと思います。『浪漫・挑戦・夢』という言葉 皆さんへの祝いの言葉、励ましの言葉と致します。」と祝辞が述べられました。

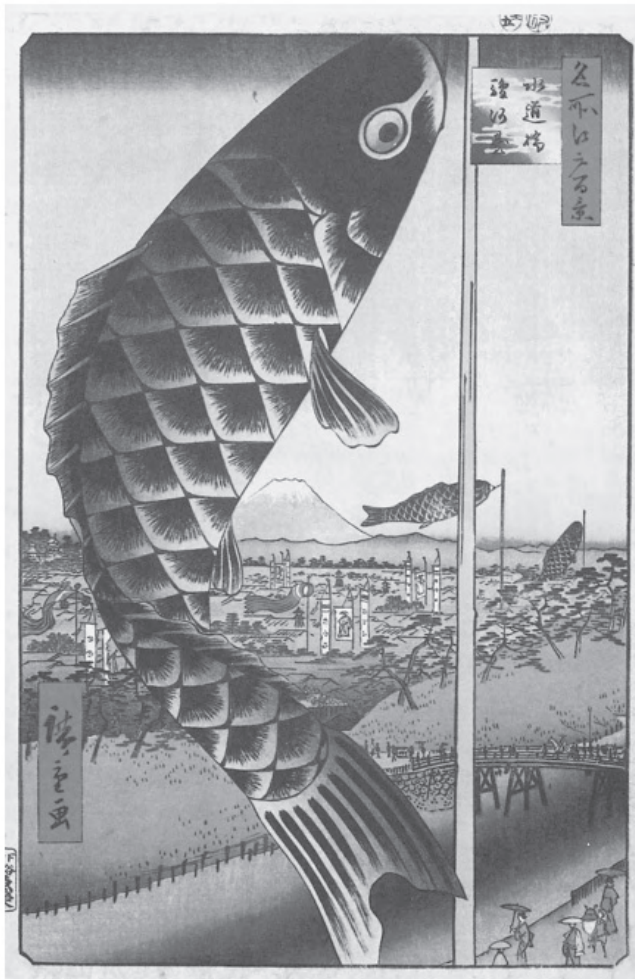
また、木南英紀学長は新入生に向かい、「大学院の教育のあり方は、これから大きく変わっていきます。国内及び海外の大学との交流も身近になっていく中、皆さんはアクティブに知識・技術を習得し、研究者、プロフェッショナルとして、キャリアを向上させていっていただきたい」と述べられ、他大学との大学間連携プログラムによる、人材養成、研究能力の習得を図った大学院プログラムを1つ紹介されました。また、「大学院における研究の役割は、研究の成果である知を見出し、人々の暮らしや人類の未来のメッセージを送ることです。174年の歴史と伝統を受け継ぐ順天堂大学大学院で可能性にチャレンジして、それぞれの科学分野に一步でも、自分の足跡を残す気概で頑張ってもらいたいと願っております。皆さん方と、将来社会に役立つ研究成果を生むべく、ともに努力してまいりましょう。」と式辞の言葉を述べられました。

この日、大学院生活における新たなスタートを切った新入生は、小川理事長、木南学長のお話を受けて、順天堂大学大学院に学ぶという思いを更に強めていたようでした。



大学院入学式の様子

歌川広重の絵



安政2年(1855)の大地震から2年後、江戸の復興も進み、人々は富士山を眺め、鯉のぼりや鍾馗の旗を掲げ、元気になった様子が描かれている。＜改印は、安政4年(1857)閏5月＞

順天堂大学医学部附属順天堂医院2号館か
順天堂大学9号館辺りからの眺望とされています。

- ◆ 出典：謎その十四 鯉のぼりは何を指す？
「水道橋駿河台」より抜粋



平成24年度 順天堂学祖祭

企画調査室室長補佐
各務 正

4月6日(金)学祖祭が上野精養軒で開催されました。昨年は東日本大震災がありましたので、これに配慮し「学祖を偲ぶ会」として規模を縮小して開催いたしました。本年はご案内は通常規模でしたが、2年ぶりということで、過去最大の出席者で、会場が溢れる程の盛会となりました。

式辞として、小川秀興理事長から、大略を次のとおり戴きました。

I 東日本大震災における本学の対応

本学では有事における順天堂の対応として次のとおり規定されているが、今一度、確認しておきたい。

- ①火急のことへの緊急対応は各学部長・病院長（各部門長）の判断に委ね、そのTPOにおける最善策を考え実行する。但し、法人本部に必ず事後報告をする。
- ②その後、外部からの要請・要望に対する返答・対応については、法人本部に確認のうえ行う。
- ③個々の学部・病院ではなく、学校法人順天堂全体として対応する。通常は部門長、（事例によっては総務局長）、学長、理事長と順次決裁を経て行くが、災害などの緊急時対応は全て同時、又は直接理事長に問い合わせ決裁を得る。
- ④理事長に事ある時は、学長、次いで医学部長が決裁する。

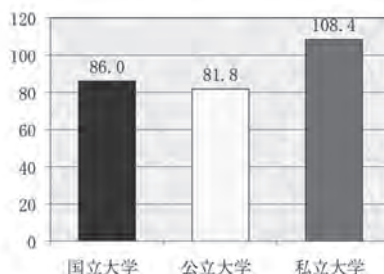
さて、今回の東日本大震災において、3大学院、4学部、6附属病院群には大きなダメージはなく、現場において十分な対応が出来たようであり、静岡病院では院長と理事長決裁の下に、3月11日（震災30分後）にDMAT発動、その後各病院は同様にDMAT・その他を次々と発動した。各部門長からの報告も14日（月）には全て整い、概ね上手く対応出来たと考えている。特に浦安病院は、患者・職員に事故はなく、病院自体の損傷は軽微であったが、停電と断水が続いた。高森院長以下、整然と職務を遂行、医の本務を遂行した。（高森院長報告として別掲の予定）

東日本大震災に対する本学の医療支援活動は、岩手医科大学、福島県立医大、気仙沼市、南三陸町等に41隊、延べ110名余を派遣した。日本私立医科大学協会の資料によれば、1校当りの医師等派遣人数において国立大86.0名、公立大81.8名、私立大学108.4名であり、私立大学の活躍が理解できる。

東日本大震災 被災地への医師等派遣状況

<平成24年2月11日 現在：日本私立医科大学協会資料より>

	大学数	病院数	チーム数	派遣人数	派遣延べ人数	1大学当り派遣人数
国立大学	41	44	1,205	3,527	17,245	86.0
公立大学	7	8	220	573	3,024	81.8
私立大学	29	66	1,103	3,146	12,872	108.4



Ⅱ 第28回日本医学会総会

小川理事長が副会頭に就任されている第28回日本医学会総会は、大震災のために、総会は学術講演会のDVD・Web配信、医学教育史展（国立科学博物館）、リアル博覧会（国立科学技術館）、特別企画シンポジウム、書籍「医の未来」・図録「歴史でみる・日本の医師の作り方」の刊行、記念切手等を織り交ぜて行う形態となった。総会における一連のイベントによって、佐藤泰然、佐藤尚中、佐藤進が、日本の医学教育の発展において大きな役割を果たしたことを紹介することができた。また、震災6日前の3月5日に国際スポーツロジ学会を日本医学会の賛同を得て発足させたことは大きな意義があった。

Ⅲ 本学の財務状況

平成12年以来、改善すべき項目毎に組織横断的なプロジェクトチームを編成し、協議し問題解決を行った結果、法人全体の帰属収支差額は毎年増加し、総負債比率は減少を続け、格付投資情報センター（R&I）の格付けにおいて「AA（安定的）」を取得している。この間、財政面の改善とともに事業規模も拡大している。本学の研究力を生かし4つの研究センター（老人性疾患・病態治療研究センター、環境医学研究所、スポーツ健康医科学研究所、スポーツロジセンター）を開設し、大学院入学定員の増加、医学部の学納金引き下げ、保健看護学部の開設、順天堂東京江東高齢者医療センターと練馬病院の開設など、借入金を増やすことなく教育・研究・診療事業の高度化を図っている。

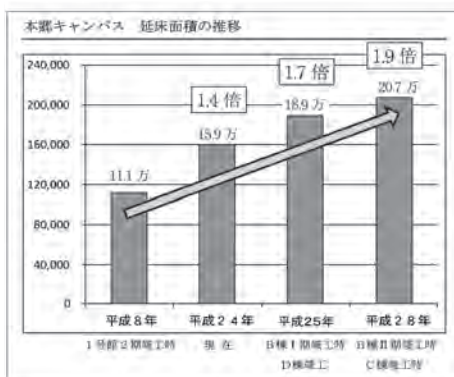
Ⅳ B棟建築

全国1250の病院の都道府県別ランキングが新聞・週刊誌等で紹介され、順天堂医院、静岡病院、浦安病院、練馬病院が上位にランキングされ、頼れる病院として評価されている。現在建築中の順天堂医院B棟は、(1)100年建築（長寿命、フレキシビリティ、耐震性）、(2)次世代環境医療に対応したエコホスピタル（環境格付取得、最新の免震技術の採用など）、(3)最先端のICT技術の導入、(4)患者、スタッフに優しい癒しの空間作りというコンセプトをもって建築している。本郷キャンパスにおける診療活動は、1号館に合わせB棟、C棟、D棟の完成をもって世界的な先端医療を行い、医療を求める方々に更に信頼される病院となる。

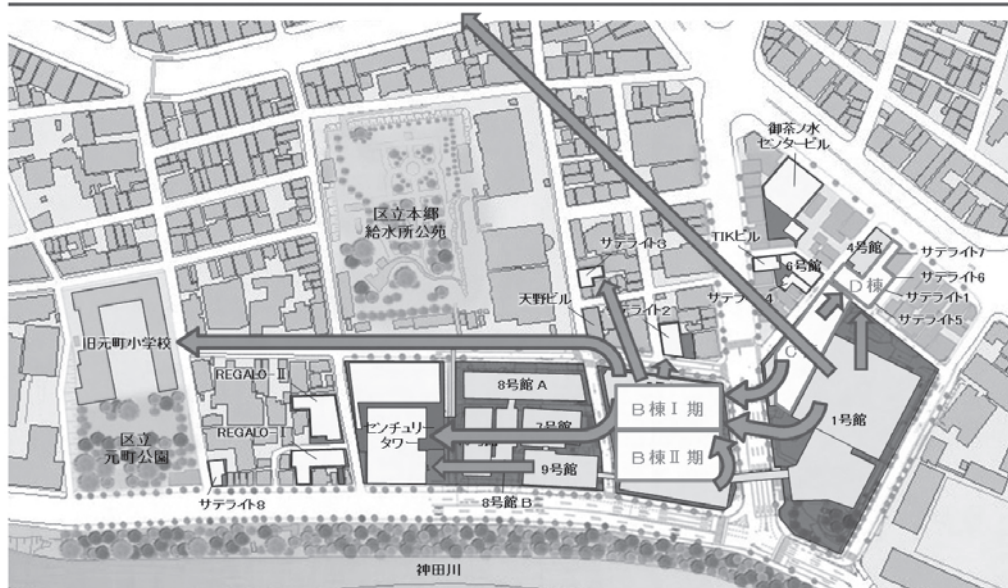
本郷キャンパスの再整備計画に基づき、原形質流動に必要なサテライトを確保し、大型物件として平成21年にセンチュリータワー、平成23年に御茶の水センタービルを取得した。これらの整備の結果、本郷キャンパスの延床面積は、1号館2期竣工時（平成8年）＝1とした時、現在（平成24年）1.4倍、B棟Ⅰ期＋D棟竣工時（平成25年）1.7倍、B棟Ⅱ期＋C棟竣工時（平成28年）1.9倍となる。これらの増築中、病院、大学共に現状の医療、教育等の活動に一切支障をきたさないよう施設環境が整えられているのが特徴であると述べられました。



新たに取得したセンチュリータワー（左）と御茶の水センタービル（右）



本郷キャンパス 敷地・建物配置図



V 国際的な教育・研究活動

本学の高い教育・研究力を基盤として、平成23年度私立大学等経常費補助金は、交付額が6位（昨年8位）、科学研究費の採択件数では8位（昨年11位）であった。また大学院の充実化が図られ、学位論文（H20-H23）のインパクトファクター（IF）において、甲論文（英文率85.0%）IF = 3.140、乙論文（英文率74.5%）IF = 2.742であった。また、書誌引用データベース（Scopus）掲載論文（2005-2009）1論文あたりの被引用数において1位、トムソンロイターの論文引用度指数（国内2005-2009）において11位（京都大と同位）であった。

本学の国際的なレベルの教育、研究、診療は、国際交流活動の活性化をもたらしている。平成23年8月本学と国立がん研究センター、（タイ国）マヒドン大学学術交流協定が締結され、平成23年8月北京大学との第2回国際学術シンポジウムの開催、平成23年9月（ドイツ）シャリテ・ベルリン医科大学との第2回ジョイントシンポジウムの開催、平成23年11月（タイ国）チェンマイ大学との国際交流協定書調印式を在日タイ大使館で行った。今後は国際的な共同研究へと発展するものと予想している。

Ⅵ 「一順天堂人としての文化・風土」

最後に次の本学ミッションの徹底を再要請されました。以上が、学祖祭において小川理事長が述べられた御講話の大略です。

一 順天堂人としての文化・風土 一

- ① 礼儀・接遇・マナー ー全順天堂としてー
～ 優しさ, 思いやる心, “品性を尊び和を重んじる心” ～
- ② 地球環境保全 ー健康総合大学としてー
～ 他を慈しみ, 慮る心, これ即ち “仁”
人 → 生きとし生けるもの → 地球 ～
省エネ, エコロジー ～
- ③ 教育力 アップ, 不断前進
～ 教えることは学ぶこと也, 褒める, 讃える, 育てる
(学生, 研修医, 大学院生, 看護師, 医師など, 全教職員)
自己評価, 他己評価<学生, 患者, 後進…> ～
- ④ 職種間連携
～ 安心・安全の高度先進医療と地域医療の推進,
大学人としての自覚, 自らの存在意義, “志” の確認～

引き続き酒井シヅ特任教授から「順天堂三代目堂主佐藤進の活躍～李鴻章、大韓医院～」の講演があり、佐藤家ゆかりの方々と歓談し、盛会のうちに学祖祭を終了いたしました。

学祖祭講演「順天堂三代目堂主 佐藤 進の活躍 ～李鴻章、大韓医院～」

医史学研究室特任教授
酒井 シヅ

順天堂は今、臨床面・研究面で立派な業績を残して発展の一途を辿っていますが、三代目堂主の佐藤進の時代に「順天堂」が日本国のみならず国外にまでその名前が知られた時代がありました。佐藤進はドイツに留学して、アジア人として最初のベルリン大学医学部を卒業して医学博士号を得て帰国しました。帰国後、平時には順天堂で院長職や、塾生の指導にもあたりましたが、戦時になると陸軍軍医総監として活躍しています。

1877年、「西南戦争」の際には軍医監として活躍し、戦後は1882年に二代目尚中が亡くなるまで、陸軍本病院院長を務めます。その後の1884年から1885年にかけて、勅任官として帝国大学講師に任命されています。その当時、帝国大学で勅任官は総長と佐藤進だけで、佐藤進は、附属病院の第一医院、第二医院の院長を務めました。1889年（明治21年）には、日本最初の医学博士の学位を授与しています。普段は順天堂で静かに活躍する佐藤進ですが、事、社会に一大事が起こると、率先して先頭に立って活躍しています。

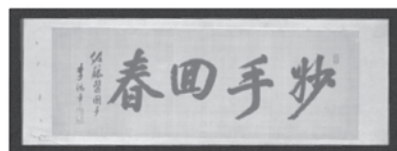
西南戦争や濃尾大震災などでの救助活動の記録が残されています。濃尾大震災での救助では、医員とともに10日間現地で診療や視察に当たり、県知事等に救済対策を指示したとあります。他の病院からもいろいろな方が出て活躍していますが、トップが出るというのは他になかったようです。



1894年から1895年の日清戦争、その後の日露戦争では、それぞれ陸軍軍医総監として軍務に当たっておられます。1895年3月20日、「日清講和会談」が下関で始まりましたが、その直後に李鴻章が暴漢に狙撃されました。そのとき広島予備病院にいた佐藤進軍医総監が急遽呼び出され、下関にて李鴻章の治療に当たりました。李鴻章は当時、中国の外務大臣で最高の官僚として活躍した人物です。李鴻章の治療は、創傷は左方眼下、弾丸は上顎骨に刺さって留まっている状態で、摘出手術は老体であることに加え、重要な任務中であつたこと、麻酔をかけての手術は清国皇帝の許可が必要であつたことから、弾丸を抜かずに、毎日消毒をしながら治療が行われ、化膿することなく無事に回復されました。



このとき、李鴻章と佐藤進の間で様々な会話が行われました。「何故、軍装をしているのか。何故、帯刀しているのか。」という李鴻章の問いに、佐藤進は「日本ではすべての男が戦う。軍医も戦う。自分の剣は殺人剣ではない、活人剣だ。常に百病と戦い、必ず勝つ剣である。」と答えています。李鴻章は、佐藤進軍医総監に大変感心して、詩を贈っています。その中の「妙手回春」という言葉を、北京に帰られた李鴻章にお願いして書いていただいた扁額は、現在順天堂の宝物になっています。それには「佐藤医国士」という言葉が記載されていますが、この「国士」は佐藤進が上医である、国を治める医師へという意味の敬称です。

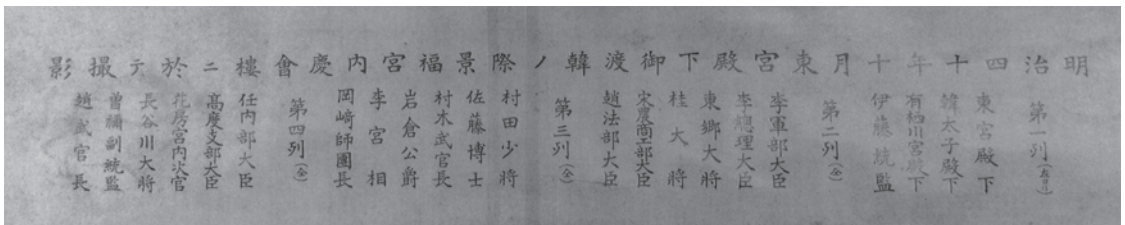


更に日韓保護協約締結後の1906年には、韓国の衛生の指導者として任命されました。日露戦争の後、日韓保護協約を締結するにあたり、韓国統監となった伊藤博文から、佐藤進に「韓国の医事衛生の管理と、大韓医院の建設の責任者となってほしい。」と依頼がありましたが、佐藤進は「自分と同じような力のある人は幾らでもいるから、その人にお願いしてほしい。」と言って固辞しました。順天堂を長く離れていたこともあり、順天堂に戻り、順天堂を支えていきたいという考えがあつたのかもしれません。

しかし、伊藤博文は「勅命をもって言えば、佐藤進は必ず聞くに違いない」ということで、勅命を持って佐藤進を説得し、韓国の医事衛生の管理者としました。

伊藤博文が佐藤進に白羽の矢を立てたのは、佐藤進が清国・韓国にも著名な医師として知られていたため、日本の超一流の医師がその最高責任者になることが統治に最も相応しいと考えたからです。

皇太子が渡韓された1907年には、その随員として参りました。その際の写真には、前列の左から当時の皇太子（大正天皇）が立たれ、その横に小柄な韓国の皇太子、更にその横に東久邇宮、伊藤博文が立っています。また、前から3列目の左から2人目に佐藤進がいます。



佐藤進は韓国皇帝から大韓医院創立委員長を任命され医院の建設に当たりました。本当に苦勞して敷地を捜します。韓国側は非常に冷たく様々な妨害も受けましたが、最後は馬頭山を選定して木造建築の予定を変更し、韓国の風土を考慮したレンガ造りの建物を3年の歳月をかけて1908年に完成させました。

完成した大韓医院は、現在のソウル大学にあります。ソウル大学側は、一時、非常に面白くなく思ったようですが、現在は非常に誇れる建物として有効かつ大切に扱っています。大韓医院の建設で、佐藤進の名前は清国・韓国、それから日本全土に一層広く知られるようになったのです。



学校法人順天堂 役員・評議員

(平成 24 年 4 月 1 日現在)

<選任条項順>

役 員 【理事長】 小川 秀興

【理 事】 木南 英紀 学長
 新井 一 医学研究科長・医学部長
 野川 春夫 スポーツ健康科学部長
 岡田 隆夫 医療看護学部長
 高崎 芳成 順天堂医院長
 前田 稔 静岡病院名誉院長
 高森 建二
 宮野 武 練馬病院名誉院長
 梁井 皎 順天堂東京江東高齢者医療センター院長
 三橋 直樹 静岡病院長
 多田 宏
 佐藤 信紘
 稲富 恵子 保健看護学部長
 児島 邦明 練馬病院長
 吉田 幸洋 浦安病院長

【監 事】 辛島 睦
 濱本 英輔

評議員 (37 名)

児島 邦明	吉田 幸洋	代田 浩之	稲田 英一	形本 静夫
中島 宣行	野村志保子	青木きよ子	細谷 芳三	照沼 則子
高森 建二	富野康日己	森近 浩	中澤 真逸	林 淑子
佐藤 潔	伊藤 政男	小川 秀興	木南 英紀	新井 一
野川 春夫	岡田 隆夫	梁井 皎	多田 宏	佐藤 信紘
稲富 恵子	高崎 芳成	前田 稔	宮野 武	新井 平伊
石館 敬三	三橋 直樹	津田 裕士	津村 秀憲	奥村 康
河盛 隆造	澤木 啓祐			

教授就任



横溝 岳彦 教授

教授就任にあたって

大学院医学研究科生化学・細胞機能制御学
医学部生化学第一講座（併任）

横溝 岳彦

平成24年4月1日付けで順天堂大学医学部生化学第一講座に赴任致しました。就任に際しまして、小川秀興理事長、木南英紀学長、新井一医学部長、長岡功教授、内山安男教授には大変なご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

私は東京大学医学部を卒業した後、東大病院産婦人科に入局し、わずか3年間ではありますが、臨床医としてのトレーニングを受けました。順天堂大学静岡病院長の三橋直樹教授は当時東大病院講師で直接の指導を賜りましたし、順天堂大学産婦人科学講座の竹田省教授は医局の先輩に当たります。縁あって大先輩方と共に仕事ができる喜びを感じております。陣痛促進剤として使用されるプロスタグランジン (PG) の作用機序が当時は不明であったことから、大学院では生理活性脂質研究の若手リーダーであった東大第二生化学の清水孝雄教授の研究室に入れていただきましたが、すぐに研究の魅力に取り憑かれ、基礎医学で生きていく決心をしました。PGとは似て非なる生理活性脂質ロイコトリエン (LT) の代謝・酵素学をみっちりと学んだ後に、受容体生化学に転じ、LT受容体の遺伝子同定に世界で初めて成功し、一人前の生化学者として認めてもらえるようになりました。その後もいくつかの細胞膜受容体をクローニングし、それぞれの遺伝子欠損マウスの表現型を解析する過程で、炎症・免疫反応の研究を行うようになりました。6年前から故郷の九州大学で研究室を主宰しており、今回の順天堂大学からのお誘いには、正直申し上げて相当な迷いがありましたが、基礎医学研究者養成にける順天堂大学の情熱を信じて移動する決心をしました。

世界第二の高峰 K2 (8,611m) をはじめ、国内外の山登りに没頭する不勉強な医学生でしたが、学部時代には2年間生化学教室に通い、連日糖脂質の研究を行っておりました。クロマトグラフィーで、美しく分離される脂質やタンパク質の挙動に感動したことが私の研究者としての第一歩でした。自らの研究をさらに発展させることは当然として、若い学生に研究の醍醐味を味わうチャンスを与え、とかく内向き・安全志向と言われる医学部生に基礎医学研究への興味を喚起したいと思います。リスクを覚悟しなければ高峰の頂きに達することはできません。その頂から見下ろす景色の素晴らしさを若い医学生・医学研究者に経験して欲しいと念じています。諸先生方におかれましては、ご指導・ご鞭撻、そしてご協力の程、お願い申し上げます。

よこみぞ たけひこ
横溝 岳彦

【学歴及び職歴】

昭和63年3月 東京大学医学部卒業
平成7年3月 東京大学大学院医学研究科修了
(医学博士)
平成7年4月 日本学術振興会特別研究員
(東京大学大学院医学系研究科第二生化学教室)
平成10年4月 東京大学大学院医学系研究科
細胞情報分野助手
平成12年10月 同 助教授
平成18年2月 九州大学大学院医学研究院
医化学分野教授
平成22年10月 同 主幹教授

平成24年4月より現職



美田 敏宏 教授

教授就任にあたって

大学院医学研究科生体防御・寄生虫学
医学部熱帯医学・寄生虫病学講座（併任）

美田 敏宏

平成 24 年 4 月 1 日付で順天堂大学医学部・熱帯医学寄生虫病学講座の教授を拝命いたしました。小川秀興理事長をはじめ、木南英紀学長、新井一医学部長、また医学部教授会の諸先生方に心より御礼申し上げます。

私は平成 2 年に長崎大学を卒業いたしました。卒業後はまず戸田剛太郎先生が主任教授であられた東京慈恵会医科大学の第一内科学講座へ入局、臨床の研鑽を積みました。途中国立がんセンター中央病院へ国内留学し、胃癌の臨床病理学的研究をおこないました。この成果は後に学位論文として報告をしています。

平成 11 年に小早川隆敏教授が主宰されていた、東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座の門を叩き、熱帯医学の道を歩み始めました。入局後から熱帯地域のフィールドに赴き様々な熱帯病を経験する中で、マラリアは圧倒的な保健医療上のインパクトを持った感染症であることを実感、マラリア薬剤耐性についてしっかり研究していけば、必ずマラリア根絶に貢献できると考え、私のライフワークとすることに決定いたしました。私の研究者としてのキャリアにおいて幸運だったことは、当時大阪工業大学、のちに大阪大学微生物学研究所へ移られた田邊和祐教授から研究に対する心構え、取り組み方を一から徹底的に指導していただいたことです。

これまでの耐性進化の研究から、マラリア原虫における薬剤耐性能の獲得はさほど頻繁ではないこと、他の病原体と同様に耐性化が正常機能の障害を起こすこと、しかし一部の薬剤に対してはこのデメリットを代償するメカニズムがあり、「耐性かつ発育の良い」いわゆるスーパー耐性原虫が進化しうることが明らかになってきました。熱帯熱マラリア原虫はこれまですべての抗マラリア薬に対し耐性化してきました。実に手強い相手ですが、私は敵の特徴を研究し尽くすこと、すなわち既存抗マラリア薬に対する耐性進化のメカニズムを徹底的に解明することが、いずれは合理的かつ現実的な抗マラリア薬の創薬につながると確信しています。

まだまだ戸惑うことも多い毎日ですが、田邊先生の座右の銘「研究者は定年時に自分にとってベストの研究をすべし」を胸に、たゆまぬ自己研鑽を続け、大学人として教育、研究に全力を尽くしていきたいと思います。どうかご指導のほど、よろしくお願いいたします。

み た としひろ

美田 敏宏

【学歴及び職歴】

平成 2 年 3 月	長崎大学医学部卒業
平成 2 年 6 月	東京慈恵会医科大学附属病院内科研修医
平成 4 年 6 月	東京慈恵会医科大学附属病院 第一内科学講座医員
平成 8 年 1 月	国立がんセンター中央病院 臨床検査部国内留学
平成 9 年 7 月	東京慈恵会医科大学附属病院 消化器肝臓内科学講座医員
平成 10 年 1 月	東京慈恵会医科大学附属病院 消化器肝臓内科学講座助手(助教)
平成 10 年 6 月	東京都衛生局目黒保健センター医療主査
平成 11 年 4 月	東京女子医科大学医学部・国際環境 熱帯医学講座助手(助教)
平成 14 年 2 月	医学博士号取得
平成 17 年 10 月	東京女子医科大学医学部・国際環境 熱帯医学講座講師

平成 24 年 4 月より現職

教授就任にあたって

医学部一般教育研究室（外国語）

東 淳一



東 淳一 教授

本年4月に一般教育研究室（外国語研究室）に教授として着任いたしました。今まで兵庫県の高等学校、賢明女子学院短期大学、流通科学大学での英語教育を経験してまいりましたが、その経験をもとに、医学教育の中での英語教育がいかにあるべきかを模索し、本学にふさわしい英語教育の新たな体系が構築できますよう、微力

ながら精進させていただきたく思います。

今日まで、研究面では主に音声学の分野で実績を上げてまいりました。とりわけイントネーションやポーズ、言語リズムといった韻律的特徴と統語構造とのかかわりについて研究を実施してまいりましたが、現在は日本語のモーラリズムと統語構造との関係について調査しております。なお、流通科学大学在職中には、外国語教育における先進メディアの利用について研究と教育実践も行ってきました。オープンソースのMoodleを利用したブレンド型教育をすべての必修の英語科目に取り入れ、またその中で音声教材作成時にはTTS（Text-To-Speech）をふんだんに活用するという斬新な手法も取り入れました。

一方、最近ではユニバーサルなコミュニケーション手段として、絵文字状の視覚言語の構築研究も行っています。多種多様な言語的・文化的背景を持つ人々が混在する大都市において、大地震などの災害時には避難警告や安全情報を全ての人々に確実に送り届けることが必要となります。また日本人であっても聴覚障害を持つ方々など、身体に障害を持つ人々にも同じ情報が確実に送られる必要があります。このため現在災害時の警告メッセージ送信にドメインを限定した上で、既存言語に基づかないユニバーサルな記号を使った視覚言語によるメッセージを考案し、さまざまなメディアを利用してそれらを配信する方法を提案すべく研究を進めています。

過日学生より留学の相談を受けました。その内容の深さに驚き感心もしましたが、教員が1のアドバイスをするだけで学生は年数をかけて100以上の果実を実らせてくれるような予感がします。学生とのちょっとしたふれ合いが彼らの今後の人生に大きな影響を与える可能性があると考え、本学の教員としての責務は大変大きいと実感しています。今後も先生方のご指導を受け、外国語の教育だけではなく、あらゆる面で本学学生のサポートに努めたく思いますので、どうかよろしく願い申し上げます。

あずま じゅんいち
東 淳一

【学歴及び職歴】

昭和51年3月 神戸市外国語大学外国語学部
英米学科卒業
昭和51年4月 兵庫県立尼崎高等学校教諭
昭和57年3月 兵庫教育大学大学院修士課程教科
領域教育専攻言語系コース修了
(教育学修士取得)
昭和57年4月 兵庫県立鈴蘭台西高等学校教諭
昭和61年4月 兵庫県立長田高等学校教諭
昭和63年4月 賢明女子学院短期大学講師
平成3年4月 同助教授
平成5年4月 流通科学大学商学部助教授
平成8年4月 同教授

平成24年4月より現職

新入職員講習会・歓迎会開催

人事部長
馬場 子孝

平成24年度新入職員講習会を、4月2日（月）～3日（火）の2日間、有山登記念館講堂において、順天堂職員としての基本的知識、ルール、マナーを身に付けるべく、法人・大学、順天堂医院、越谷病院、東京江東高齢者医療センター、練馬病院に勤務する新入職員 292 名を対象に実施いたしました。

講習会初日は、木南学長、新井医学部長、各病院長から、順天堂人として第一歩を踏み出すにあたり、学是「仁」、理念「不断前進」を中心としたお話をいただきました。続いて、順天堂創立から今日に至る「順天堂の歴史」、学校法人順天堂組織機構、危機管理・接遇マナー、職業倫理、感染対策、健康管理、セクシュアルハラスメント防止等の講義が行われました。

2日目は、外部講師により、「爽やかな応対」をテーマに、接遇マナーの基本を、講義・演習・グループ討議を交えて学び、理解を深めました。

午後は、本富士警察署により、院内における来院者への対応、盗難被害に対する防犯対策等の講義を受けました。また、本郷消防署により、防火・防災管理、地震に対する心構え等の講義に加え、屋内消火栓使用法のデモンストレーションも行われました。

2日間に亘る講習会を終え、歓迎会がセンチュリータワーにて開催されました。はじめに小川理事長、木南学長から祝辞があり、宮野練馬病院名誉院長による乾杯の後、懇談が行われ親睦を深め合いました。やや緊張気味の新入職員もすぐに打ち解け、懇談の輪が広がりました。その後、新入職員代表から謝辞が述べられ、締めくくりに新井医学部長から励ましの言葉をいただき、盛況のうちに終了いたしました。

新入職員の皆さんのご活躍を心より期待いたします。



新入職員講習会



歓迎会の様子

主なる人事異動

(平成 24 年 3 月 1 日～平成 24 年 5 月 1 日)

※任期更新人事を除く

人事部長

馬場 子孝

平成 24 年 3 月 1 日付

田城 孝雄 スポーツ健康科学部 客員教授 就任

平成 24 年 3 月 31 日付

大森大二郎 医学部 教授 退職

丸井 英二 医学部公衆衛生学講座 教授 退職

森 健太郎 医学部脳神経外科学講座 教授 退職

藤目 真 医学研究科泌尿器外科学 教授 退職

金子今朝秋 スポーツ健康科学部 教授 退職

竹内 敏康 スポーツ健康科学部 客員教授 退職

大友 泰司 スポーツ健康科学部 先任准教授 退職

日野 直樹 医療看護学部 教授 退職

細谷 芳三 総務局 総務局長事務取扱者 退職

外山 幸治 健康管理センター 課長 退職

鈴木 廣美 順天堂医院臨床工学室 技士長(課長補佐待遇) 退職

清宮 正嗣 医学部附属順天堂医院事務部 部長 退職

土屋 清子 静岡病院・看護部 部長 退職

望月 充 静岡病院・医療安全管理室 課長補佐 退職

古谷津純一 浦安病院診療部臨床検査医学科 技師長 退職

尾頭 敏夫 浦安病院事務部職員課 課長(併任) 退任

浪越 隆 浦安病院事務部会計課 課長(併任) 退任

森岡 哲次 順天堂東京江東高齢者医療センター事務部 部長事務取扱者(次長待遇) 退職

山岡 喜保 練馬病院事務部総務課 課長補佐 退職

高崎 芳成 内科学教室 チェアマン 退任

金子今朝秋 学校法人順天堂 評議員 退任

園田清次郎 医学部附属順天堂医院集中治療室 副室長 退任

高森 建二 浦安病院 院長 退任

森 健太郎 静岡病院 院長補佐 退任

吉尾千世子 三島キャンパス学生部 学生部長 退任

内山 安男 医学研究科研究基盤センター 副センター長 退任

高橋 和久 医学研究科研究基盤センター 副センター長 退任

上野 隆 医学研究科研究基盤センター 世話人 退任

高橋 和久 医学研究科研究基盤センターアイソトープ研究室 室長 退任

長岡 功 医学研究科研究基盤センター特殊疾患モデル研究室 室長 退任

関川 巖 浦安病院健康管理室 室長 退任

佐久間和彦 さくらキャンパス学生部啓心寮 総寮監 退任

加納 實 さくらキャンパス学生部啓心寮 寮監 退任

田中 和廣 さくらキャンパス学生部啓心寮 寮監 退任

岩神真一郎	順天堂大学（静岡病院担当）校医	退任
大蔵 隆一	順天堂大学（練馬病院担当）校医	退任
藤澤 稔	順天堂大学（練馬病院担当）校医	退任
伊藤 俊之	情報センター本部本郷地区情報センター	課長 出向解除

平成 24 年 4 月 1 日付

吉田 幸洋	学校法人順天堂	理事	就任
吉田 幸洋	学校法人順天堂	評議員	就任
中島 宣行	学校法人順天堂	評議員	就任
渡邊 純夫	内科学教室	チェアマン	就任
川崎 誠治	外科学教室	チェアマン	就任
竹田 省	内科・外科以外	チェアマン	就任
佐藤 浩一	医学部附属静岡病院	院長補佐	就任
代田 浩之	医学部附属順天堂医院救急プライマリケアセンター	センター長	就任
射場 敏明	医学部附属順天堂医院救急プライマリケアセンター	副センター長	就任
山本 牧子	医学部附属順天堂医院集中治療室	副室長	就任
平松 啓一	医学研究科感染制御科学研究センター	センター長	就任
横溝 岳彦	医学研究科研究基盤センター	副センター長	就任
美田 敏宏	医学研究科感染制御科学研究センター	副センター長	就任
櫻井 隆	医学研究科研究基盤センターアイソトープ研究室	室長	就任
國廣なごみ	医学研究科疾患モデル研究センター特殊疾患モデル研究室	室長	就任
富永 滋	浦安病院健康管理室	室長	就任
加藤 洋一	浦安病院健康管理室	室長補佐	就任
若林 道郎	順天堂大学（静岡病院担当）校医	就任	
朴 宗晋	順天堂大学（練馬病院担当）校医	就任	
國分 茂博	順天堂大学（練馬病院担当）校医	就任	
東 淳一	医学部一般教育研究室	教授	就任
横溝 岳彦	医学研究科生化学・細胞機能制御学	教授	就任
横溝 岳彦	医学部生化学第一講座	教授（併任）	就任
美田 敏宏	医学研究科生体防御・細胞機能制御学	教授	就任
美田 敏宏	医学部熱帯医学・寄生虫病学講座	教授（併任）	就任
岡本暉公彦	順天堂大学	特任教授	就任
土屋 清子	順天堂大学	特任教授	就任
恒松由記子	順天堂大学	特任教授	就任
滝本 正美	順天堂大学	特任先任准教授	就任
北川 博史	順天堂大学	特任准教授	就任
田城 孝雄	保健看護学部	客員教授	就任
森本 幾夫	医学研究科寄付講座（免疫病・がん先端治療学講座）	客員教授	就任
大森大二郎	医学部一般教育研究室	客員教授	就任
丸井 英二	医学部公衆衛生学講座	客員教授	就任

藤目 真	医学部泌尿器科学講座	客員教授	就任
洪井壯一郎	がん生涯教育センター	客員教授	就任
小菅 智男	がん生涯教育センター	客員教授	就任
飛内 賢正	がん生涯教育センター	客員教授	就任
中釜 齊	がん生涯教育センター	客員教授	就任
牛島 俊和	がん生涯教育センター	客員教授	就任
山田 哲司	がん生涯教育センター	客員教授	就任
大津 敦	がん生涯教育センター	客員教授	就任
大江裕一郎	がん生涯教育センター	客員教授	就任
岩崎 甫	臨床研究センター	客員教授	就任
本井ゆみ子	医学研究科寄付講座（認知症診断・予防・治療学講座）	先任准教授	就任
江原 義郎	医学研究科医学教育学	准教授（併任）	就任
藤谷与士夫	医学研究科代謝内分泌内科学	先任准教授	就任
櫻庭 景植	スポーツ健康科学部スポーツ科学科	学科長	就任
佐久間和彦	スポーツ健康科学部スポーツ科学科	副学科長	就任
小笠原悦子	スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科	学科長	就任
濱野 光之	さくらキャンパス学生部	学生部長	就任
廣澤 正孝	さくらキャンパス学生相談室	室長	就任
中島 宣行	図書館分館	分館長	就任
加納 實	さくらキャンパス学生部啓心寮	総寮監	就任
四方田 清	さくらキャンパス学生部啓心寮	寮監	就任
浅野 恵子	さくらキャンパス学生部啓心寮	寮監	就任
杉田 正明	スポーツ健康科学部	客員教授	就任
大野 早苗	スポーツ健康科学部	先任准教授	就任
初田真知子	医療看護学部	教授（併任）	就任
長岡 正範	保健看護学部	教授（併任）	就任
大熊 泰之	保健看護学部	教授（併任）	就任
和田 勝	保健看護学部	客員教授	就任
雑賀 俊夫	保健看護学部	客員教授	就任
石塚 淳子	保健看護学部	先任准教授	就任
豊田 淑恵	三島キャンパス学生部	学生部長	就任
細谷 芳三	総務局	総務局長事務取扱	就任
細谷 芳三	総務局企画調査室	室長（併任）	就任
帯金 克巳	総務局総務部文書・広報課	課長補佐	就任
島田 忠秀	総務局財務部管財課	課長補佐（併任）	就任
川島 徹	浦安病院事務部職員課	課長（併任）	就任
川島 徹	浦安病院事務部会計課	課長（併任）	就任
茂木 隆	練馬病院事務部総務課	調査役	就任
宮下 和夫	総務局企画調査室	課長補佐	昇任

大竹 淳雅	総務局総務部総務課 課長補佐 昇任
中谷 良平	キャンパス・ホスピタル再編事業事務局 課長 昇任
伊藤 嘉章	医学部事務室 事務長事務取扱者（次長待遇） 昇任
伊藤 嘉章	大学院事務室 事務長事務取扱者（次長待遇）（併任） 昇任
磯部 豊	医学部医学教育研究室（臨床研修センター） 課長補佐 昇任
大江 進	浦安キャンパス事務室 事務長事務取扱者（次長待遇） 昇任
井田豊太郎	順天堂医院事務部 次長 昇任
井田豊太郎	順天堂医院事務部医事課 課長（併任） 昇任
堀越 正之	順天堂医院事務部 次長 昇任
堀越 正之	順天堂医院事務部資材供給課 課長（併任） 昇任
芳士戸治義	順天堂医院放射線部 技師長（課長待遇） 昇任
戸島 郁子	順天堂医院看護部看護教育課 課長 昇任
櫻井 順子	順天堂医院看護部看護教育課 課長 昇任
中村 昭也	順天堂医院臨床工学室 技士長心得（課長補佐待遇） 昇任
白石 知己	順天堂医院事務部資材供給課 課長補佐 昇任
堀江みどり	静岡病院看護部 部長事務取扱者 昇任
矢田 博幸	静岡病院医療保険室 課長 昇任
落合美智子	静岡病院事務部医事課 課長 昇任
長澤 幸子	静岡病院看護部看護総務課 課長補佐 昇任
山田 邦光	静岡病院診療部検査室 技師長心得 昇任
市川 政雄	静岡病院事務部営繕管財課 課長補佐 昇任
小野 隆宏	静岡病院情報管理室 課長補佐 昇任
川島 徹	浦安病院事務部 部長事務取扱者（次長待遇） 昇任
唐島 孝彰	浦安病院医療安全管理室 課長補佐 昇任
小林 弘美	練馬病院看護部 課長補佐 昇任
伊藤 俊之	情報センター本部本郷地区情報センター 課長 配置換え
瀧上 伸江	浦安病院看護部 看護師長 配置換え
尾頭 敏夫	順天堂医院事務部 事務部長 配置換え
浪越 隆	順天堂東京江東高齢者医療センター事務部 部長事務取扱者（次長待遇） 配置換え
尾頭 敏夫	医学部附属順天堂医院G C Pセンター治験事務局 事務局員 就任

平成 24 年 5 月 1 日付

島内 憲夫	スポーツ健康科学部 副学部長 就任
森 健太郎	医学部脳神経外科学講座 客員教授 就任
田中 和廣	医学部 先任准教授 就任
中尾 保秋	医学部脳神経外科学講座 先任准教授 就任
初田真知子	スポーツ健康科学部 教授（併任） 就任
杉山 雅勇	スポーツ健康科学部 客員教授 就任
鈴木 知幸	スポーツ健康科学部 客員教授 就任
ロ－ナキップシュ	スポーツ健康科学部 客員教授 就任
ドンナットビーム	スポーツ健康科学部 客員教授 就任

細見 修 医療看護学部 教授（併任） 就任
 國武 孝明 医学部附属練馬病院事務部医事課 課長 配置換え
 森 博樹 医学部附属順天堂越谷病院事務室総務課 課長補佐 配置換え

主要行事予定

（平成 24 年 6 月～9 月）

月	日	内 容	場 所
6月	1(金)～3(日)	啓心寮寮祭	さくらキャンパス
	2(土)	スポーツ健康科学部第2回オープンキャンパス	さくらキャンパス
	5(火)	永年勤続者表彰式	有山記念館講堂
	8(金)～9(土)	軽井沢セミナー（共催：練馬区）	練馬病院
	16(土)	桜順会定例総会	本郷キャンパス
	18(月)	国際交流セミナー	浦安キャンパス
	23(土)	第30回都民公開講座	有山記念館講堂
	23(土)	保健看護学部研究報告会	三島キャンパス
	26(火)	保健看護学部臨地実習全体説明会	三島キャンパス
	30(土)	6病院就職説明会（保健看護学部）	三島キャンパス
7月	6(金)	臨床研修医のための学術集会	有山記念館講堂
	20(金)～21(土)	医学教育・卒後教育ワークショップ	成田ビューホテル
	21(土)	保健看護学部第1回オープンキャンパス	三島キャンパス
	21(土)	スポーツ健康科学部第3回オープンキャンパス	さくらキャンパス
	22(日)	医療看護学部第1回オープンキャンパス	浦安キャンパス
	28(土)	初期臨床研修医選考試験（第1回）	本郷キャンパス
	28(土)	大学院医学研究科定期語学試験	本郷キャンパス
8月	1(水)	第9回医療看護学部教員ワークショップ	浦安キャンパス
	4(土)	初期臨床研修医選考試験（第2回）	本郷キャンパス
	4(土)	大学院医学研究科定期語学試験	本郷キャンパス
	5(日)	保健看護学部第2回オープンキャンパス	三島キャンパス
	6(月)	保健看護学部FD研修会	三島キャンパス
	9(木)	保健看護学部臨地実習指導者研修会	三島キャンパス
	18(土)	医療看護学部第2回オープンキャンパス	浦安キャンパス
	25(土)	スポーツ健康科学部進学相談会	さくらキャンパス
	未 定	教職員学内野球大会	神宮外苑軟式野球場
	未 定	スポーツ健康科学部保護者懇談会	

月	日	内 容	場 所
9月	8(土)	大学院スポーツ健康科学研究科入学試験(A日程)	本郷キャンパス
	9(日)	保健看護学部第3回オープンキャンパス	三島キャンパス
	13(木)	第328回順天堂医学会学術集会	10号館1階カンファレンスルーム
	13(木)	大学院医学研究科入学試験(前期)	有山登記念館講堂
	15(土)	ナーシングセレモニー(仮称)	三島キャンパス
	23(日)	医療看護学部進学相談会	浦安キャンパス
	22(土)～23(日)	臨床研修医・指導医のための研修会	クロスウェーブ府中研修所
	29(木)	系統解剖遺骨返還式	駒込吉祥寺
	未 定	教職員学内ボウリング大会	東京ドームボウリングセンター
	未 定	科学研究費補助金学内説明会	有山登記念館講堂
	未 定	スポーツ健康科学部AO入学試験(面接)	さくらキャンパス
	未 定	スポーツ健康科学部保護者懇談会	本郷キャンパス
	未 定	大学院医療看護学研究科入学試験(前期)	浦安キャンパス
	未 定	センター運営協議会・地域連携協議会	高齢者医療センター
	未 定	病院運営連絡協議会	練馬病院

訃 報

ご冥福を祈り、謹んでお知らせします。

中村 純一 殿	医学部(外科) S32 年卒	平成 24 年 1 月 28 日逝去
丸山 美和 殿	医学部(内科) S24 年卒	平成 24 年 2 月 1 日逝去
河野 信弘 殿	元体育学部教授	平成 24 年 2 月 12 日逝去
仲本 宙高 殿	助手(腎臓内科学)	平成 24 年 2 月 18 日逝去
細田 誠治 殿	医学部(脳外) S34 年卒	平成 24 年 2 月 23 日逝去
松澤 茂隆 殿	名誉教授(法医学)	平成 24 年 3 月 3 日逝去
中出 隆 殿	体育学部 S35 年卒	平成 24 年 3 月 23 日逝去
布施 敬憲 殿	体育学部 S37 年卒	平成 24 年 4 月 8 日逝去
葉袋 壽信 殿	体育学部 S43 年卒	平成 24 年 4 月 13 日逝去
信川 文誠 殿	准教授(病理・腫瘍学)	平成 24 年 4 月 16 日逝去
青木 昌治 殿	体育学部 S35 年卒	平成 24 年 5 月 6 日逝去

医学部（本郷キャンパス）近況

1. 平成 23 年度卒業式・卒業証書授与式

平成 23 年度順天堂大学卒業式は、3 月 16 日（金）にグランドプリンスホテル新高輪（飛天の間）において、医学部・スポーツ健康科学部・医療看護学部による 3 学部合同の卒業式が開催されました。合同卒業式終了後に、学部毎の卒業証書授与式が行われ、医学部は卒業生一人ひとりに新井一医学部長より卒業証書が授与され、感動的な卒業証書授与式となりました。



卒業証書授与式の様子

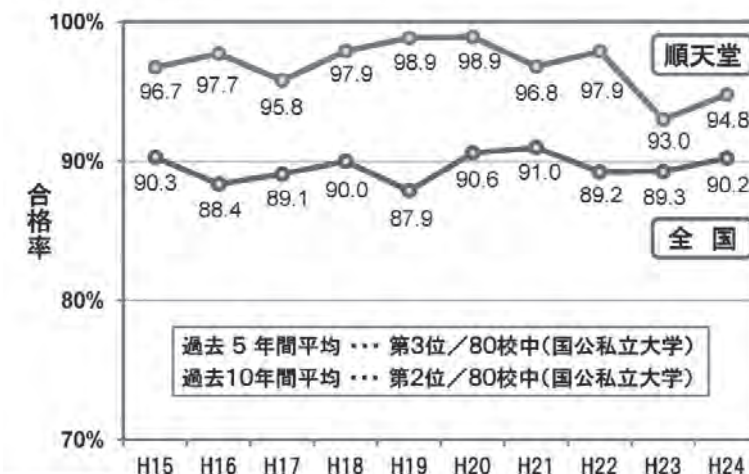
2. 第 106 回医師国家試験

第 106 回医師国家試験は、2 月 11 日（土）～ 13 日（月）に施行され、3 月 19 日（月）に厚生労働省から合格者が発表されました。本学の受験者は 96 名に対して合格者は 91 名、合格率は 94.8% で新卒者は 89 名中 86 名合格、既卒者は 7 名中 5 名合格しました。なお、全国平均の合格率は 90.2% でした。

今回不合格となった卒業生については、国試対策委員会の指導のもと勉強中で、次回の試験では合格されるよう期待しております。

	受験者	合格者	合格率
新 卒	89	86	96.63
既 卒	7	5	71.43
計	96	91	94.79

医師国家試験合格率推移



JUNTENDO UNIVERSITY

3. 第30回 新入生キャンプ『Freshperson Camp: Jin (仁) Seminar』

第30回新入生キャンプ『Freshperson Camp: Jin (仁) Seminar』は4月21日(土)～22日(日)の2日間、千葉県長生郡長柄町の「日本エアロビクスセンター」において医学部1年生121名、教職員等52名が参加して開催されました。

この『キャンプ』では、新入生がキャンパスを離れた地で医師を志す自分を再確認し、それを友人と語り合い、学習意欲を向上させ、かつ順天堂の学是「仁」の精神を知ることによって本学の学生であることに誇りを持つ場とすることを目標としています。

4. 平成24年度医学部新入生父母歓迎会

医学部新入生父母歓迎会は、4月5日(木)、入学式終了後、午後3時30分からグランドプリンスホテル新高輪において開催されました。平成24年度父母会長の中村出様から新任挨拶および父母会の役割等について説明後、運営委員の紹介が行われました。

また、来賓として出席された小川秀興理事長から祝辞があり、午後6時30分に閉会しました。



中村出医学部父母会長の新任挨拶の様子
(医学部事務長事務取扱者 伊藤 嘉章)

順天堂医院近況

1. 東京都認知症疾患医療センターの指定

2月9日(木)付けで東京都より区中央部(千代田区・中央区・港区・文京区・台東区)の認知症疾患医療センターとして指定されました。

急速な高齢化の進展に伴い、認知症高齢者が増大する中、認知症高齢者の医療ニーズも量的に拡大していくものと見込まれます。当該センターは、こうした課題を解決するため、医療連携機関、さらには、医療と介護の連携の推進役としての役割を担います。当院は、メンタルクリニックと脳神経内科との高次の有機的連携があり、総合的に治療する体制に優れていることが評価されたものと思われます。運営にあたっては、メンタルクリニック、脳神経内科の他、看護部、医療連携室、医療福祉相談室、管理課が協力して行っています。

2. 病院業務改善セミナーの実施

3月3日(土)に有山記念館講堂において、「病院業務改善セミナー」を実施いたしました。

当該セミナーは本年度で45回目を迎える歴史あるセミナーです。当日は、医師30名、看護師43名、コメディカル50名、大学職員9名、附属病院7名の計139名が参加しました。「災害初期の対応等について」「患者クレームに対する医師としての初期対応」をテーマとした講演に引き続き、「職種間連携」をテーマとしたグループ討議を実施しました。グループ討議では、ポストイットと模造紙を用意して、目で見てもマッピングしながら討議できるように工夫しました。また、ファシリテーターを任命してディスカッションを活発化させる試みも実施しました。

アンケート調査を実施した結果、様々な職種が集まって意見交換することは、自分の役割を見直して問題点を共有することができ、チーム医療確立のために有意義であったという意見が多数を占めました。

引き続き、セミナー・プログラムの改善を図り、業務改善向上に活かしていきたいと考えております。



3. 総合防災訓練実施

3月5日（月）13時15分より15時にかけて総合防災訓練を実施しました。東京消防庁本郷消防署より一日消防署長の委嘱を受けた高崎院長の指揮下のもと、1号館9階病棟における初期消火・避難訓練を行いました。訓練終了後に、訓練参加者全員が集合し、本郷消防署長からの講評を拝聴しました。訓練で経験して良かった点、反省点を踏まえ、今後の防災対策・活動に生かしていきたいと思えます。雨天のため、予定していたヘリポート、梯子車（脱出・救出）、一斉放水等の訓練が中止となったことは残念でしたが、大変有意義な訓練となりました。

4. がん患者と医療のパートナーシップを考えるワークショップ

「第3患者と医療の架け橋」の開催

がん診療連携拠点病院としての活動として年1回開催している「患者と医療の架け橋」を3月17日（土）に開催いたしました。今回は順天堂医院が患者会との連携をどれだけ図れているかを、他大学病院の活動を知り、今後の取り組みを医療者と患者会の方々と一緒に考えていくことを目的として、外部講師による講演、当院がん治療センター西尾臨床心理士とがん看護専門看護師奥出師長との司会によるパネルディスカッションの2部構成で行いました。講演では、次期5年間の「がん対策推進基本計画」の取り組む施策ともなっている“小児がん”にも着目し、小児科齋藤正博准教授にもご講演いただきました。患者や家族の心のケアをサポートする体制に対する感謝の声や、他院から参加された医療関係者の方からは、今後の活動するうえでの励みになったとの声をいただき、とても有意義なワークショップとなりました。



5. JMN臨床研究会の開催

2月18日（土）に「がん診療のAtoZ 初期対応から進行がん治療まで」をテーマに、ベルサル八重洲にて、第21回JMN臨床研究会を開催しました。多くの連携協力医療機関の先生方にご参加いただきました。

(1) 座長：JMN臨床研究会世話人 村上クリニック院長 村上幸人

講師・演題：①三宅一徳助教（臨床検査医学科）

「腫瘍マーカー検査－最近の進歩と動向－」

②和久本芳彰准教授（泌尿器科）

「金の斧と銀の斧－泌尿器癌を考える－」

(2) 座長：順天堂医院病病連携委員長 山高篤行教授（小児外科・小児泌尿生殖器外科）

講師・演題：③加藤順子准教授（消化器内科）

「胃がんの化学療法－診断から治療まで－」

④中井克也助教（乳腺科）

「乳がん診療のA to Z」

（順天堂医院事務部長 尾頭 敏夫）

静岡病院近況

1. 市民公開講座

平成24年1月19日（木）、地域住民を対象とした市民公開講座を開催しました。今回は「赤ちゃんに必要な予防接種～ワクチンで髄膜炎を予防しましょう」と題し、永田智先生（小児科・新生児科先任教授）より講演が行われました。予防接種の働きや種類、細菌性髄膜炎の恐ろしさと、その予防に有効なワクチンなどについて、丁寧な言葉で大変わかりやすく講演が行われました。「予防接種は任意接種も含めて受けたほうが得」と呼びかけられました。82名の方々が聴講され、ご自身のお子様に関する質疑も活発に行われ、大変好評な公開講座となりました。



2. 静岡県議会視察

平成24年1月12日（木）、静岡県議会厚生委員会14名による救命救急センター、新生児センター及び東部ドクターヘリの視察が行われ、両センターの概要及びドクターヘリの運行状況等について、各センター長からの説明及び施設見学が行われ、医師、看護師に多くの質問がなされていました。

3. 東部地区救命救急医学研修会

平成24年1月20日（金）、静岡県東部消防長会との共催により東部地区救命救急医学研修会が、沼津、下田、三島等14消防本部の出席をいただき開催されました。演題発表は3消防本部、ドクターヘリ運行会社及び静岡病院救急診療科よりなされ、全体質疑も活発に行われ、有意義な研修会となりました。

4. 研修管理委員会

平成23年度研修管理委員会が3月6日（火）に開催されました。冒頭、静岡病院三橋院長より初期臨床研修病院及び協力施設への謝辞が述べられ、小池臨床研修センター長より23年

度研修報告がなされ、研修医全員を修了認定としたい旨報告がなされました。又、協力型臨床研修病院及び研修協力施設より研修報告がなされ「非常に意欲的に研修を行った」又、「積極性アクティビティが高い」等の報告をいただきました。

5. がん治療研修会

がんの早期診断に関する研修会が地域のがん医療に携わる医師等を対象に開催されました。今回は地域がん診療連携拠点病院の指定要件である「2次医療圏のがん医療に携わる医師」を対象とした研修会として開催されました。「エピジェネティックセラピー～新しい治療～」と題し、JHONS HOPKINS 大学、胸部外科准教授マルコム・ブロック先生をお招きし講演が行われました。「Stage1でもメチル化したがんは予後が悪い」などと説明され、分かりやすい英語と流暢な日本語を交え、講演が行われました。当日は地域の開業医の先生方も多数参加され、活発な質疑応答もあり大変有意義な研修会となりました。



6. 大規模災害時院内対応訓練

東海地震を含む大災害発生時、負傷された被災者への対応に関する受入れトリアージ診療、広域搬送に加え、院内災害対策本部の運営訓練を行うことで大災害発生時の円滑な対応を目的とした訓練が行われました。

訓練内容：1次トリアージ、2次トリアージ（治療）、
広域搬送へ向けた安定化と準備、災害対策本部での情報収集と運営

訓練方法：机上訓練（120分）患者カードの使用
実施訓練（80分）模擬患者 40名

訓練は2部構成（机上・実施）で行われ災害時院内対応の流れに従い、災害対策本部・第1トリアージ・第2トリアージ（治療）・広域搬送を順に回りながら、患者の誘導、対応、処置等の検証をする訓練方法で実施された。

参加人数：スタッフ 21名

訓練参加者 33名

模擬患者 40名（市役所職員、消防署員）



7. 航空進出DMAT訓練

平成24年3月13日（火）、自衛隊、警察、消防、海上保安庁、県消防防災航空隊の各ヘリコプターにより新東名高速道路を活用して迅速に応援部隊やDMATチームを搬送できるよう、サービスエリアヘリサポートでの離着陸訓練



に参加しました。新東名サービスエリアヘリポートを活用した航空進出訓練では、限られた空間の中で、かつ医療資機材が乏しい状況下での、傷病者に対するトリアージ訓練を体験出来ました。又、海上保安庁との検証会を持てた事で、活動知識の幅を広げることができ、大変有意義な訓練となりました。



(静岡病院事務部長事務取扱者 江ノ浦 重貴)

浦安病院近況

1. 平成 24 年順天堂大学浦安病院賀詞交歓会について

平成 24 年 1 月 5 日（木）、外来棟 3 階講堂と地下 1 階職員食堂にて新春賀詞交歓会を執り行いました。第一部（講堂）では高森院長の講話、吉田診療部長、喜多看護部長、尾頭事務部長より新年に向けての課題や今後の目標についてお話がありました。教職員をはじめとする多くの出席者は病院の方針や目標を理解し、新たな気持ちで取り組んでいく決意を固めました。第二部（地下食堂）では親睦会を開催し、お互いに親睦を深めあう姿が見られました。



親睦を深めておりました

2. 市川市消防出初め式

平成 24 年 1 月 7 日（土）、市川市消防出初め式が大洲防災公園にて開催され、高森院長、川島課長が出席しました。神山洋一郎教授が救命救急士の気管挿管に関する実習で多くの救命救急士を育成し、市川消防行政に対し救急業務高度化の推進に尽力した功績に対し、感謝状が贈られました。



神山教授ご苦労様でした

3. 浦安市消防出初め式

平成 24 年 1 月 8 日（日）、浦安市消防出初め式が浦安市立東小学校にて開催され、高森院長、川島課長が出席しました。順天堂大学浦安病院は、浦安市の消防業務に積極的に協力し、人命の救護に尽力した功績に対し浦安市長より感謝状が贈られ、高森院長が救急協力病院の代表として表彰されました。今後も地域住民の人命救護に積極的に協力していきたいと思います。



救急医療施設を代表しての授賞式の様子

4. 震災復旧に尽力した 102 団体に千葉県知事感謝状

平成 24 年 1 月 12 日（木）、千葉県庁にて、東日本大震災において被災地及び被災された方々のために尽力した功績に対し、千葉県知事より感謝状が贈られ、岡本救急・災害医学教授が病院の代表として出席しました。当院の他自衛隊 8 隊、川崎消防局など 14 機関、県からの要請で人的物的支援を行った県建設業協会など 40 団体、県からの要請で他県の支援を行った日本精神科病院協会県支部など 36 団体に感謝状が贈られました。



DMA T 医療救護班初の快挙！

5. 第 30 回医療連携フォーラム

平成 24 年 1 月 25 日（水）、新浦安ブライトンホテルにて、近隣医師会の先生方をお招きし、講演を行いました。終了後の情報交換会では和やかに懇談の場が広がりました。



医療連携フォーラムの様子

- ・テーマ：「ペインクリニックでよく診る疾患」
講 師：順天堂大学浦安病院 麻酔科 熊川優子助手
 - ・テーマ：「痛みの強い皮膚疾患～特に帯状疱疹について～」
講 師：順天堂大学浦安病院 皮膚科 春名邦隆准教授
 - ・テーマ：「重症四肢外傷への取り組み～手の外科・外傷班」
講 師：順天堂大学浦安病院 整形外科 工藤俊哉助手
- （参加人数：院内関係者 46 名、医師会関係者等 39 名、合計 85 名）

6. 順天堂大学浦安病院初期臨床研修説明会

平成 24 年 2 月 4 日（土）、当院で初めて他大学、本学の学生を対象とした初期臨床研修説明会を行いました。説明会では各診療科の先生方が予定時間を過ぎてしまうほど熱意ある説明を行いました。また、オリエンタルホテルで行った懇親会では、現役研修医や指導医も多く参加し、当院での臨床研修について話を行いました。



順天堂大学浦安病院で待ってます！

7. 介護保険制度講演会

平成 24 年 2 月 8 日（水）、順天堂大学浦安病院講堂にて、浦安市医師会から先生方をお招きしご講演頂きました。

- ・司会者：小林クリニック 小林澄子院長
- ・テーマ：「介護保険制度と要介護認定の仕組み」
講 師：浦安市健康福祉部介護保険課認定係 岩田ちあき係長
- ・テーマ：「主治医意見書の記載方法について」
講 師：浦安市介護認定審査会委員長浦安市医師会理事 熊川 均



熱心な講義

8. 献血の協力について

平成 24 年 2 月 9 日（木）、船橋赤十字血液センターの活動に協力し、病院内で献血を行いました。院内の教職員からも大勢の献血希望者がおり、慢性的に血液が不足している事態に微力ながらも力添えできるよう、今後も献血活動に協力していきたいと思ひます。

9. 市民公開講座

浦安病院では、地域の基幹病院として地域医療に寄与すべく、市民の健康への啓蒙活動として毎月市民公開講座を開催しており、多数の方にご参加を頂き好評を得ております。

・第 48 回 平成 24 年 2 月 25 日（土）

順天堂大学浦安病院講堂 参加者 158 名

テーマ：「糖尿病患者さんの足と命を救う最先端治療：フットケア再生治療について」

講 師：順天堂医院 形成外科 田中里佳助教



市民公開講座の様子

10. リスクマネジメント・個人情報保護講演会

平成 24 年 3 月 2 日（金）、本学顧問弁護士桑原博道先生をお迎えし、リスクマネジメントと個人情報保護に関する講演会を開催しました。講演では、実際に医療現場で発生している医療事故・医療訴訟と個人情報に関するトラブルについて、具体的な例を挙げて説明頂きました。そのため、とても身近にトラブルがあることがわかり、安全で安心な医療を提供できるよう考える機会になりました。

（参加人数：医師 22 名、看護師 168 名、コメディカル 23 名、事務員 24 名、その他 5 名、合計 242 名）



講演会の様子

11. 総合災害訓練開催

平成 24 年 3 月 3 日（土）、岡本救急・災害医学教授総指揮のもと当院で初めてとなる総合災害訓練が行われました。第一部では(株)オリエンタルランドセキュリティ部長の早川清敬先生をお招きし「3.11 東京ディズニーランドで起きたこと～防災体制と行動指針～」と題してご講演頂きました。防災体制の確立と日々の防災訓練の重要性を再確認しました。第二部では浦安市消防本部

協力のもと「実地版エマルゴ」として病院全体を使用し災害訓練を行いました。災害訓練は、参加者の役割分担を決め、アクションカードを用いて、災害マニュアルの検証、動線の確認、本部の立ち上げに重点を置き行われました。訓練終了後の反省会では、積極的な意見交換が行われ、今後の訓練やマニュアル改定に活かしていきたいと思ひます。

（参加人数：医師 45 名、看護師 58 名、コメディカル 9 名、事務員 23 名、その他 5 名、他施設 31 名、合計 171 名）



実践さながらの訓練

12. 接遇に関する講演会

平成 24 年 3 月 13 日（火）、NKSJ リスクマネジメント(株) 医療リスクマネジメント事業部主任コンサルタント能村仁美先生をお迎えし、接遇に関する講演会を行いました。講演では、医療機関におけるコミュニケーション、患者・家族との「安心と信頼関係」作りについてご説明頂きました。

（参加人数：医師3名、看護師106名、コメディカル16名、事務員19名、その他6名、合計150名）

（浦安病院事務部長事務取扱者 川島 徹）

順天堂越谷病院近況

1. 認定看護師取得

平成23年度、順天堂大学学内認定看護師試験に3名の看護師が合格し、認定証を新井平伊院長代行より授与されました。

認定分野は、メンタルケア、摂食・嚥下障害看護、褥瘡ケアの3分野です。

今後、取得された看護師3名の活躍が期待されます。



新井委員長代行、曾田看護部長と3名の認定看護師

2. 教職員研修会の実施（越谷病院内集会ホール）

①医療安全対策関係

平成 24 年 3 月 15 日（木）、金澤昭雄准教授（糖尿病・代謝内分科）を講師に、糖尿病治療「2 型糖尿病治療の現状と問題点」という演題で研修会を開催いたしました。各部署から多数の教職員の参加があり、精神科の入院患者を対象とした治療を啓蒙する貴重な学習の場となりました。



金澤先生による講演

②禁煙外来に関する薬品説明会

平成 24 年 2 月 16 日（木）、28 日（火）、教職員を対象として禁煙治療薬に関する講習会を開催いたしました。

治療薬開発複数メーカー担当者による禁煙治療補助薬の説明を受け、内科、メンタルクリニックの先生方が、薬の効能及び効果について、熱心に受講いたしました。



『禁煙外来』小林院長補佐（内科科長総括）

3. 医療安全相互ラウンドの実施

平成 24 年 2 月 13 日（月）、27 日（月）に、精神科病床を有する越谷病院と、昭和大学鳥山病院との間で、医療安全対策と感染防止対策に係る、相互訪問の病棟ラウンドを実施いたしました。

（社）日本私立医科大学協会作成によるチェックシートに基づき、双方にとって有意義な相互ラウンドとなりました。



相互ラウンドを担当された医療安全管理、感染対策の皆さん

4. 新人看護職員歓迎会

平成24年1月28日(土)、平成24年度の看護課新規採用予定者を招き、東武レバント東京ホテルヴェルデールにおいて、歓迎会を実施いたしました。

当日は、メンタルクリニック安宅勇人総病棟医長をはじめ、曾田看護部長、佐藤病棟師長、竿代看護課主任等も参加し、新人看護職員に、越谷病院になじんで頂くことができました。

精神科看護を志す若い力に期待すると共に、患者に寄り添う看護師に成長されることを願っております。



平成24年度新入職員歓迎会

5. 春日部保健所による施設見学(病院訪問)

平成24年1月12日(木)、春日部保健所主催による精神保健医療福祉体制の連携強化を目的とした実務者連絡会(春日部保健所管轄内の市町職員、相談支援事業所職員による協議会)を、当院の集会ホールで開催いたしました。

会議は新井平伊院長代行、鈴木利人院長補佐(メンタルクリニック科長)からの挨拶ではじまり、受診・受療支援等に関して活発な質疑応答があり、有意義な実務者連絡会となりました。



春日部保健所による病院見学

6. 新年顔合わせ会

平成24年1月4日(水)、集会ホールにおいて、新年顔合わせ会を開催いたしました。

新井平伊院長代行より、日頃、従事している業務への労いと、新たな飛躍に向け職域横断的に連携を図ることを希望する旨の挨拶がありました。

また、恒例として、特産の越谷だるまに当院の発展を記念して、片目を入れました。



越谷病院の新年顔合わせ会

7. 禁煙パトロールの実施

順天堂越谷病院では、本学において推進されている禁煙対策に倣い、毎月22日に禁煙パトロールを実施しています。

敷地内禁煙の周知、並びに協力の要請を適宜行う等の活動を続けております。

(越谷病院事務長 勝又 俊雄)



毎月実施の禁煙パトロール

順天堂東京江東高齢者医療センター近況

1. 新医療情報システム変更

1月1日（日）より新医療情報システム（株式会社ソフトウェア・サービス）に変更となりました。

2. 平成23年度放射線科使用施設に対する立入検査

2月22日（水）に東京都福祉保健局医療政策部医療安全課指導係による平成23年度の放射線科使用施設に対する立入検査が行われました。

放射線施設の構造及び帳簿書類等についての検査が行われました。

指摘事項はありませんでした。

3. 消防演習実施

3月4日（日）、センター建物東側2階から出火を想定した消防演習が実施されました。

自衛消防隊の初期消火活動、119番通報、逃げ遅れ者の避難誘導、はしご車での救出、ポンプ車での一斉放水実施、救助隊、はしご隊、資材搬送隊、ポンプ隊、救急隊、指揮隊、参加人数50名で演習を行いました。終了後現場で城東消防署による講評があり、なお一層、日頃の防災意識を高めることができました。



ポンプ車での一斉放水

4. 地域連携協議会

3月22日（木）に江東区医師会・福井理事を議長に、平成23年度第2回地域連携協議会が開催されました。江東区・墨田区・江戸川区の医師会理事、歯科医師会長、薬剤師会長等で構成される委員により、複合施設と地域関係機関との連携のしくみづくり及びその実績に関して協議が行われました。

5. 運営協議会

3月23日（金）に都立墨東病院・古賀院長を議長に、平成23年度第2回センター運営協議会が開催されました。梁井院長から平成23年度運営実績、平成24年度事業計画（案）について、詳細説明があり、委員による運営方針、事業計画、診療実績等の協議が行われました。

6. 区民健康講座

区民を対象に公開講座が開催されました。

第1回4月21日（土）

「もしも、あなたが医師から薬を処方されたら」

演 者：薬剤科 井上薬剤師

7. ボランティアイベント

①ボランティアコンサート

毎月1階多目的ホールにて入院患者、外来患者、近隣施設入所者の方を対象にボランティアコンサートを開催しております。さまざまなジャンルの演奏が行われ、毎回楽しいひとときを過ごしています。3月は以下のコンサートを開催いたしました。

・3月21日(水) 大曽根美亜さんのフルート&ギター

②病棟ボランティア

- ・2月2日(木) 節分会、紙芝居、手遊び歌(6B病棟)
- ・3月1日(木) ひな祭り会、紙芝居、手遊び歌(6A病棟)
- ・3月8日(木) ひな祭り会(6B病棟)

③2階外来展示コーナー

患者さんの癒しの空間作りを目的とした2階外来展示コーナーには、さまざまな絵や写真が展示されています。

- ・1月 習字
- ・2月 写真
- ・3月 水彩画
- ・4月 絵手紙

④ボランティア意見交換会

3月26日(月)に当センターで活動しているボランティアの方々とボランティア委員(職員)との意見交換会を開催しました。活動を通して日頃感じたことや、病院に対するご意見などを聞くことができました。

(順天堂東京江東高齢者医療センター事務部長事務取扱者 浪越 隆)



コンサートの様子



ひな祭り会

練馬病院近況

1. ひな人形・五月人形の飾り付け

1月19日(木)に本年も例年通り2階外来にひな人形の飾り付けを行い、3月5日(月)に五月人形の飾り付けを行いました。

特に入院の患者さんから「季節を感じることができる」とご好評をいただいております。

2. 光が丘警察署による医療安全講習会

1月19日(木)に光が丘警察署から生活安全管理課長代行鶴田裕信警部をお招きし「院内暴力対応～護身術～」をテーマにご講演いただきました。実際に突然襲われた場合の護身術を数人の参加者が体験するなど、とてもわかりやすい有意義な講習会となりました。



3. 看護師内定者祝賀会の開催

1月21日(土)、当院に内定した看護師58名が参加し、院長はじめ看護部長、看護師長と交流し、楽しいひと時を過ごしました。

4. 石神井清掃局による廃棄物立ち入り検査の実施

1月24日(火)、石神井清掃局による廃棄物立ち入り検査が実施され、マニフェスト伝票等の資料確認と集積場の現場確認が行われました。講評では、「優良施設」と評価を受けました。

5. 東京高等裁判所によるステップアップ研修

2月9日(木)、東京高等裁判所より新人事務官18名が来院し、病院の概要説明と質疑応答、院内見学を行いました。質疑応答では、特に院内の医療安全対策について多くの質問がありました。

6. 赤十字血液センターによる献血

2月21日(火)に東京都赤十字血液センターより献血車が当院に派遣され、職員27名が献血にご協力させていただきました。

7. 私立医科大学医療安全相互ラウンド

2月29日(水)と3月7日(水)に私立医科大学医療安全相互ラウンドが行われ、北里大学北里研究所病院から医療安全管理室長はじめ、感染対策室師長、臨床工学科長、薬剤部門の方々等が当院に来院され、病棟、人工腎臓センター、外来、内視鏡センター、薬剤科、臨床工学室等をラウンドし、それぞれ意見交換を行いました。

8. 練馬病院運営連絡協議会を開催

3月14日(水)に第13回「順天堂大学医学部附属練馬病院運営連絡協議会」が開催されました。出席された委員より、練馬病院の高い診療実績に関する評価と更なる診療機能向上に関して活発なご意見をいただきました。練馬区のご支援をいただき、施設拡充を含めた検討を進めていきます。

9. 臨床研修修了祝賀会の開催

3月14日(水)に練馬区にあるホテルカデンツァ光が丘に於いて、臨床研修医100名弱が参加し、臨床研修修了祝賀会が開催されました。祝賀会では、今後の活躍に期待し、児島院長より研修医一人ひとりに記念品が授与されました。



10. 東京都区西北部保健医療圏における地域救急会議の開催について

平成22年7月より全都で開始されている東京ルールによる搬送体制に関連して、東京都より地域救急医療センターの幹事病院として、当院を指定したい旨の依頼がありました。検討の結果、平成24年度より受諾することとなり、3月16日(金)に、当院にて区西北部保健医療圏に

おける地域救急会議が開催され、当院が幹事病院として運営していくことについて、参加した委員より承認を受けました。

11. 医療連携フォーラム、区民健康医学講座を開催

【医療連携フォーラム】

- 1) 日 時：2012年1月19日（木） 18：45～20：50
座 長：平野隆雄 教授（血液内科）
講師・演題：菊地利浩 先任准教授（麻酔科・ペインクリニック）
「肺血栓塞栓症」
尾崎 裕 先任准教授（放射線科）
「日常よく見る疾患の画像診断」
平澤基之（脳神経内科）
「パーキンソン病 2011 ガイドライン」
- 2) 日 時：2012年3月15日（木） 18：45～20：50
座 長：比留間政太郎 教授（皮膚・アレルギー科）
講師・演題：木村 透 助教（呼吸器内科）
「COPDについて」
櫻井 透 助教（泌尿器科）
「排尿障害治療に関する最近の知見—前立腺肥大症と過活動膀胱—」
舟串直子 助教（皮膚・アレルギー科）
「アトピー性皮膚炎の漢方治療—動物実験の検討も含めて—」

【区民健康医学講座】

- 1) 日 時：2012年1月28日（土） 15：00～16：00
座 長：菱井誠人 先任准教授（脳神経外科）
講 師：八尾 亨 助教（耳鼻咽喉・頭頸科）
演 題：鼻の病気について
- 2) 日 時：2012年2月25日（土） 15：00～16：00
座 長：野沢雅彦 教授（整形外科・スポーツ診療科）
講 師：西山千春 准教授（順天堂大学大学院 アトピー疾患研究センター）
演 題：アレルギーについて
- 3) 日 時：2012年3月24日（土） 15：00～16：00
座 長：住吉正孝 教授（循環器内科）
講 師：吉方りえ 講師（総合診療・性差科）
演 題：更年期と向き合う

（練馬病院事務部長 黒田 稔）

スポーツ健康科学部（さくらキャンパス）近況

1. 平成 24 年度入学式

平成 24 年度スポーツ健康科学部、医学部、医療看護学部、保健看護学部入学式が、去る 4 月 5 日（木）午後 0 時 30 分、グランドプリンスホテル新高輪において挙行されました。平成 24 年度の入学人数は、スポーツ健康科学部 1 年生 331 名（スポーツ科学科 191 名、スポーツマネジメント学科 70 名、健康学科 70 名）、編入学生 1 名 2 年次、医学部 1 年生 121 名、医療看護学部 1 年生 200 名、保健看護学部 121 名の合計 773 名でした。

また、大学院スポーツ健康科学研究科入学式は、医学研究科・医療看護学研究科と合同で、4 月 13 日（金）午前 11 時から有山記念館講堂で挙行されました。博士前期課程（修士）に 53 名、博士後期課程（博士）に 9 名の合計 62 名の大学院生が入学し、高度のスポーツ健康科学の研究活動に取り組むこととなります。

2. 平成 25 年度入学試験日程を決定

平成 25 年度のスポーツ健康科学部の試験日程が次のとおり決定しました。少子化で志願者減少傾向の中、平成 25 年度入学試験においては、一般入試の一部にセンター入試利用を導入して 3 年目を迎え、センター入試利用者は 3 方式からの選択制（A 方式：従来通りのセンター試験、B 方式：センター試験＋一般入試の英語、C 方式：センター試験＋面接）に、新たに D 方式：センター試験 2 科目＋スポーツ競技に関する記録、を加えた 4 方式選択制とします。また、推薦入試の見直しを行い、推薦入試のスポーツ推薦をアスリート推薦に改称、特定校群推薦の取りやめ、一般入試の大学独自の試験（一般入試）を「独自方式」に改称した入試制度により各学科ごとに求める人材像を、より明確にし、受験生個々の能力を最大限に活かすことができる入試制度に整備いたしました。関係者の皆様におかれましては、周知等により質の高い優秀な学生を確保するため、ご協力をお願いします。

求める人材像は、順天堂大学の「建学の精神」・「教育方針」を理解し、順天堂大学を第 1 志望とする人で、スポーツと健康の科学やスポーツ関連のマネジメントに強い関心を持っている人、あるいは将来、スポーツ健康科学の分野で指導者や起業家として活躍したい人です。

多くの可能性を秘めた優秀な受験生の来学を心から願ってやみません。

	順天堂大学スポーツ健康科学部			
	AO 入試 (特別選抜/アスリート選抜)	推薦入試 編入学試験	一般入試	一般入試 (センター入試利用)
願書受付期間	H24/ 8 /14(火) ～H24/ 8 /25(土)	H24/10/22(月) ～H24/11/ 5 (月)	H25/ 1 /17(木) ～H25/ 1 /25(金)	H24/12/18(火) ～H25/ 1 /16(水)
試 験 日	H24/ 9 / 1 (土) 一次選考通知 9/5(水) H24/ 9 /13(木) 二次選考 個人面接試験	H24/11/12(月)	H25/ 2 / 6 (水)	H25/ 1 /19(土) H25/ 1 /20(日)
合 格 発 表	H24/9/24(月)10:00	H24/11/19(月)17:00	H25/2/15(金)17:00	H25/2/15(金)17:00
手続き期間	H24/ 9 /25(火) ～H24/10/ 5 (金)	H24/11/20(火) ～H24/12/ 3 (月)	H25/ 2 /18(月) ～H25/ 2 /28(木)	H25/ 2 /18(月) ～H25/ 2 /28(木)

3. 大学院スポーツ健康科学研究科入試日程決定

	大学院スポーツ健康科学研究科			
	博士前期課程			博士後期課程
	A 日程	B 日程	C 日程	
願書受付期間	H24/ 8 /14(火) ～H24/ 8 /22(水)	H24/11/27(火) ～H24/12/ 5 (水)	H25/ 1 /29(火) ～H25/ 2 / 6 (水)	H24/11/27(火) ～H24/12/ 5 (水)
試 験 日	H24/ 8 / 31(金) 一次(書類)選考結果通知 H24/ 9 / 8 (土) 二次(面接)選考	H24/12/14(金) 一次(書類)選考結果通知 H24/12/22(土) 二次(面接)選考	H25/ 2 / 15(金) 一次(書類)選考結果通知 H25/ 2 /22(金) 二次(面接)選考	H24/12/22(土) 学力・面接選考
合 格 発 表	H24/9/13(木)10:00	H24/12/28(金)10:00	H25/ 3 / 4 (月)10:00	H24/12/28(金)10:00
手続き期間	H24/ 9 /14(金) ～H24/ 9 /25(火)	H25/ 1 / 4 (金) ～H25/ 1 /15(火)	H25/ 3 / 5 (火) ～H25/ 3 /14(木)	H25/ 1 / 4 (金) ～H25/ 1 /15(火)

(さくらキャンパス事務部長 阿部 雄吉)

運動部の主なる戦績

(平成24年4月13日現在)

1. スカッシュ部

①第24回関東学生スカッシュ選手権大会団体戦(2/9～13:横浜 SQ-CUBE)

男子団体 2位

女子団体 3位

②第38回全日本学生スカッシュ選手権大会団体戦(2/27～3/1:横浜 SQ-CUBE 他)

男子団体 2位

女子団体 2位

2. スキー部

第85回全日本学生スキー選手権大会(2/20～2/29 岩手県雫石スキー場・田山スキー場)

男子大学対校 3部9位

女子大学対校 2部16位

女子2部大回転 大倉友代(4年) 1本目途中棄権

回転 大倉友代 4位

3. 体操競技部

第66回全日本体操競技選手権大会(4/7・8:国立代々木第一体育館)

男子個人総合 3位 野々村笙吾(1年)

4位 加藤 凌平(1年)

8位 今井 裕之(4年)

14位 石川 大貴(2年)

18位 垣谷 拓斗(3年)

※今大会の結果で男子上位23名に5月4日・5日に国立代々木第一体育館で行われるNHK杯への出場権が与えられました。

医療看護学部（浦安キャンパス）近況

1. 学部卒業式

3月16日（金）にグランドプリンスホテル新高輪に於いて、3学部合同の平成23年度卒業式及び卒業証書授与式が挙行されました。4年生196名全員を無事送り出すことができました。

また、卒業生による謝恩会では、4年間の思い出話や苦労話で、学生と教員が楽しい一時を時間の経過も忘れて別れを惜しみながらも、巣立つ喜びを共有しました。



2. 大学院修了式

医療看護学研究科第4回生16名が論文審査に合格し、3月24日（土）に本郷キャンパス有山登記念館講堂で行われた3研究科合同の修了式において、修士の学位記が授与されました。



3. 国家試験結果

平成 23 年度看護師・保健師・助産師国家試験の合格発表が 3 月 26 日(月)に厚生労働省であり、好成績を修めました。学生達の個々の努力と、国家試験対策委員会の先生方は、試験当日の朝まで試験会場入口で励まし応援するなど、1 年間の苦労が実った結果となりました。

	受験者数	合格者数	合 格 率
看 護 師	196	194	99.0%
保 健 師	200	187	93.5%
助 産 師	6	6	100.0%

4. 入試結果

平成 24 年度入学試験は過去最高の志願数となり、募集定員 200 名に対する倍率は 8.6 倍に達しました。入学者の出身校を見ると、北は北海道から南は沖縄県まで全国から入学していて、そのトップ 5 は 1 位東京都、2 位千葉県、3 位茨城県、4 位神奈川県、5 位埼玉県となりました。

	推 薦	一般(含：センター試験)	合 計
志願者数	181	1,532	1,713
入学者数	92	108	200

5. 学部入学式

グランドプリンスホテル新高輪に於いて、4 月 5 日(木)に 4 学部合同の平成 24 年度入学式が挙行され、医療看護学部入学定員の 200 名が入学しました。

入学生は 4 月 9 日(月)から新カリキュラムにより浦安キャンパスでの授業が開始され、各自が目標と夢を持って歩み始めました。



6. 大学院入学式

本郷キャンパス有山記念館講堂に於いて、4 月 13 日(金)に 3 研究科合同で平成 24 年度大学院入学式が行われ、17 名が医療看護学研究科修士の課程をスタートしました。



(浦安キャンパス事務長事務取扱者 大江 進)

保健看護学部（三島キャンパス）近況

1. 公開講座

第2回保健看護学部公開講座が、三島市教育委員会の後援を得て、3月18日（日）三島キャンパスにて開催されました。稲富恵子学部長講演の「息することは生きること～良い呼吸で健康づくり～呼吸のリラクゼーション効果など」を始め、感染予防に関する健康学習などが実施され、一般市民約200名の参加がありました。保健看護学部では今後も、公開講座を通じて、地域の皆様に役立つ保健・看護・医療情報を発信していきたいと思います。



2. 身近な地域との交流



三島キャンパスは周囲を住宅に囲まれています。その町会の子供会が3月11日（日）に開催されました。本学部からも学生有志がボランティアとして参加し、赤ちゃんマッサージ・竹馬づくり・風揚げなど、バラエティーに富んだ企画の運営をサポートして盛り上げました。当日は東日本大震災からちょうど1年目にあたり、120名の参加者全員で黙とうを捧げました。

3. 春の学部説明会

今年のオープンキャンパスまで間があることから、時期は早いですが3月29日（木）に春の学部説明会を開催いたしました。稲富学部長からの学部説明のほか、進学相談ブース、学生による大学紹介、模擬授業、看護学部ってどんな勉強しているの？など、盛りだくさんのメニューが用意され、参加した高校生が熱心に見学や相談をして回りました。

4. 学生活動

- ・第3回新入生キャンプが4月13日（金）・14日（土）に、静岡県御殿場市の「国立中央青少年交流の家」で開催されました。厳しい規律の中でのキャンプとなりましたが、広大な富士の大自然を満喫できた2日間でした。
- ・学生主催の第2回レクリエーション大会が、創立記念日の5月15日に三島市民体育館で開催されました。200名以上の学生と教職員・保護者が参加して、各種球技で熱戦が繰り広げられました。



（三島キャンパス事務長代行 内村 暁、課長 藤本 幸雄）

医学部同窓会

医学部同窓会は学生会員・幅広く活躍している卒業生・特別会員を対象に次のようなさまざまな活動を行っています。

1. 診療連携にかかわる活動

附属病院間、同窓生と大学間の診療連携促進のために次のような活動を行っています。

(ア) 附属病院医療連携にかかわる情報交換会（1月31日）

6病院の医療連携にかかわる医師・職員、医学部同窓会からは会長・副会長・総務・診療連携担当理事が出席し、各病院の医療連携に関する情報交換や同窓会としての活動が報告されました。

(イ) 講師派遣リストの配布

2月18日の支部長・支部幹事会で、講師依頼の資料として順天堂医院が近隣の医師会に配布している「講演会講師派遣一覧」をお配りしました。

(ウ) がん診療連携

同窓会は順天堂大学医学部附属病院で拠点病院となっている4病院とがん診療連携ネットワークを構築して同窓会員との連携を進めています。

2. 支部長・支部幹事会（2月18日）

今年は開催時期を早めて2月に行い、また、昨年同様、参加者の情報交換を促進するために円卓を囲んでの懇談会となりました。小川理事長が「順天堂の現況について」と題してお話し下さいました。各支部の現状及び本部への要望等が報告され、盛会でした。

3. 順天堂医学会学術集会（5月19日）

同窓会学術奨励賞受賞者の順天堂大学医学部呼吸器内科学講座・高橋史行先生、循環器内科学講座（順天堂練馬病院）・井上健司先生による講演、特別講演として、医療法人社団泰平会・石垣泰則先生による講演が行われました。

なお、今年の海外留学時助成は、順天堂大学医学部整形外科学講座・糸魚川善昭先生が受領されます。

4. 医学部同窓会代議員会総会（5月19日）

平成23年度会務ならびに事業報告、および平成23年度決算、平成24年度事業計画案、予算案の説明があり、承認されました。役員改選が行われ、新体制が発足されました。

5. 同窓会功労賞

18名の先生方が受賞されました。同窓会へのご協力に感謝いたします。（敬称略）

加藤 和男（昭和25年卒） 蘇原 正道（昭和30年卒） 津田 英彦（昭和36年卒）
半田 喜胤（昭和38年卒） 浜崎 政信（昭和41年卒） 家本 武（昭和41年卒）

舟山 尚（昭和 43 年卒） 加藤 弘一（昭和 43 年卒） 山岸 敏浩（昭和 43 年卒）
 工藤 正人（昭和 45 年卒） 篠原 明（昭和 45 年卒） 大原 憲一（昭和 46 年卒）
 粕田 晴之（昭和 46 年卒） 山口 達夫（昭和 46 年卒） 鎌野 俊彦（昭和 46 年卒）
 山城 雄二（昭和 46 年卒） 田中 稔（昭和 46 年卒） 今井 壽正（昭和 46 年卒）

6. 同窓会による卒業生、在校生の支援

入学、卒業行事支援や学生活動援助を行っています。父母会と共同で学生会員の修学援助を行っており、父母会・後援会との連携は今後も行なって参ります。

（広報担当理事 長岡 正範）

スポーツ健康科学部同窓会【啓友会】

1. 第 46 回全国代議員会開催

平成 24 年 3 月 25 日（日）午前 10 時より、メルキュールホテル成田において全国代議員会が開催されました。昨年は東日本大震災の影響で開催できなかったため、2 年ぶりの開催となりました。全国各地から 57 名の代議員が出席し、平成 23 年度の事業報告、決算報告、そして 24 年度の事業予定、予算案が審議され、可決、承認されました。

代議員会終了後、功労賞として本会発展のために永年にわたり尽力された方々を表彰しました。また、第 39 回東俊郎奨学生、第 25 回栗本閔夫奨学生、第 47 回啓友会奨学生に奨学金を、団体優勝クラブに報奨金を授与しました。

・第 22 回功労賞受賞者 6 名（敬称略）

卒年	氏 名	推薦支部	卒年	氏 名	推薦支部
S35	太田 勇夫	山形県支部	S39	坪井 則夫	山梨県支部
S46	木下 忠	福岡県支部	S46	久住 一郎	千葉県支部
S47	高津 眞廣	広島県支部	S44	金子今朝秋	本部

・東俊郎記念奨学金受賞者：スポーツ競技歴に秀で成績優良であり品行方正な学生

スポーツ科学科 4 年 田中 佑典 体操競技部 和歌山県和歌山北高校出身
 2011 年世界体操選手権大会（東京大会）日本代表 団体 2 位

・栗本閔夫記念奨学金受賞者：3 年生終了時の学業成績が優秀で品行方正な学生

スポーツ科学科 高田 大 陸上競技部 運動生理学ゼミ 東京都新宿高校出身

・啓友会奨学金受賞者：2 年生終了時の成績上位者

スポーツ科学科 スポーツ医科学コース

氏 名	出身校	クラブ名	ゼミナール
菅沼 優希	神奈川県 桜丘	硬式野球	体力トレーニング
加藤 千尋	東京都 東京大学教育学部付属	コーディネーション 運動同好会	教育心理学

スポーツ科学科 コーチング科学コース

氏 名	出身校	クラブ名	ゼミナール
中森のぞみ	神奈川県 横浜緑ヶ丘	ハンドボール	体力トレーニング
櫛山 千奈	神奈川県 南	蹴球	看護学

スポーツマネジメント学科

氏 名	出身校	クラブ名	ゼミナール
新里 慶乃	沖縄県 昭和薬科大学付属	軟式野球同好会	スポーツ経営組織学
久保 拓也	愛知県 横須賀	－	スポーツマネジメント

健康学科

氏 名	出身校	クラブ名	ゼミナール
泉原 早希	神奈川県 フェリス女学院	JUTA	精神保健福祉学
小座間 瞳	千葉県 千城台	ソフトボール	教育心理学

・団体優勝クラブ

No.	クラブ名	大 会 名
1	女子バスケットボール部	第 61 回関東大学女子バスケットボールリーグ戦大会 2 部優勝
2	体操競技部	第 65 回全日本学生体操競技選手権大会 男子団体総合優勝
3	女子バレーボール部	2011 年秋季関東大学女子 2 部バレーボールリーグ戦 2 部優勝
4	男子ソフトテニス部	関東学生春季リーグ戦 2 部優勝
5	硬式野球部	東都大学秋季 3 部リーグ戦 3 部優勝
6	フットサル部	関東大学フットサルリーグ 2011 1 部優勝

2. 住所変更届のお願い

住所・姓・勤務先の変更がございましたら啓友会まで必ずご連絡ください。お近くに「啓友」「順天堂だより」が届かないという方がいらっしゃいましたら、啓友会までご連絡いただけますようお願いください。

住所変更等は、電話・FAX・E-mail のいずれかでお知らせください。

TEL 0476-98-1031 FAX 0476-98-1174 E-mail keiyu@sakura.juntendo.ac.jp

(啓友会出版部長 青木 和浩)

看護学部同窓会

皆様こんにちは。看護学部同窓会は平成 24 年度に新たに医療看護学部 200 名、保健看護学部 121 名の学生会員を迎えました。同窓会の近況についてご報告いたします。

1. 医療看護学部、保健看護学部の入学生への「のびっち®」寄贈

本同窓会では毎年医療看護学部と共同で、入学生へ医療従事者用時計「のびっち®」を記念品として寄贈しています。この時計は、同窓生によって開発・販売されており、順天堂大学のオリジナル時計です。学生の皆さんには、同窓会入会式の際にこの時計を寄贈しておりますが、大変好評をいただいています。学内実習、臨地実習の際には学生全員が使用しており、さらには卒後に就職してからもこの時計を愛用している姿がみられ、同窓会としても大変嬉しく思っております。



順天堂大学オリジナル医療用時計「のびっち®」

2. 平成 24 年度 看護学部同窓会総会開催

平成 24 年 5 月 26 日(土)14:30 に有山登記念館講堂にて開催されました。同窓会総会前には、同窓生による研究発表会の開催、事業部委員会で取り扱っている順天堂グッズの販売も行いました。今年度からは総会運営マニュアルを作成し、会のスムーズな運営ができるよう、同窓会として取り組んでいます。

また、会の終了後には懇親会を実施しております。今年度も沢山の同窓生の皆様が総会にご出席頂きました。同窓会活動を通して「順天堂の看護」の発展に貢献していきたいと思っています。

3. 同窓会名簿の作成

同窓会名簿は、2000年(平成 12 年)の発行を最後に中止しておりました。本年度は、12 年ぶりに同窓会名簿の発行を計画しております。現在名簿委員会を中心に、個人情報の取扱いに留意し、作成に取り組んでおります。今年の 10 月の同窓会誌「ゆしま」と共に会員の皆様のお手元に配布する予定です。

(看護学部同窓会総務・書記 池田 恵)

医学部父母会

1. 平成 23 年度第 3 回役員会

3 月 24 日（土）、第 3 回役員会が、上野精養軒にて開催されました。下記の議題について、本会顧問の長岡功学生部長の同席の上、報告と話し合いが行われました。

<議 題>

- ・平成 24 年度新入生父母会関連について
- ・会計報告
- ・役員改選について（※）
- ・平成 24 年度父母会年間行事予定について
- ・国家試験模試・講座に対する賛助願いについて
- ・事務局連絡事項（大学事務局より）

役員会終了後、懇親会の席上で退任役員へ新井医学部長より、6 年間に渡る役員として父母会の活動へのご尽力に対し、感謝状が授与され、ご挨拶を承りました。

※従来は 6 年役員 5 人、5 年役員 2 人で三役を構成していましたが、本年度は 6 年役員 3 人、5 年役員 2 人、4 年役員 2 人で三役を構成することとし、これにより、父母会の活動が長いスパンで計画・実行して行く事が出来るようになり、今まで以上に大学の教育理念の実現のため有効的に活動出来る事になると思われます。

2. 父母総会・新入生父母歓迎会

4 月 5 日（木）、グランドプリンス新高輪において、4 学部合同で入学式が執り行われました。引き続き、国際パミール館にて新井医学部長をご来賓としてお迎えし、医学部父母総会が行われました。父母総会では、新入生父母の皆様は医学部父母会の概要説明、父母会費の内訳、具体的な大学及び学生への支援内容、修学援助金の内容の説明などを詳細にすることにより、拍手をもって順天堂大学医学部父母会の活動にご賛同していただきました。

総会終了後、小川理事長、木南学長をご来賓にお迎えして、新入生父母歓迎会が行われました。小川理事長、木南学長のご祝辞をはじめ、大学教職員の皆様の自己紹介を拝聴するうちに、順天堂大学の学生に対する熱意が新入生の父母の皆様にご理解いただけた様子が、実に和やかな雰囲気の中、早くも「学生と共に三位一体」を感じられる会となりました。

（医学部父母会 会長 中村 出）

スポーツ健康科学部保護者会【さくら会】

今年度、スポーツ健康科学部父母会である「さくら会」の会長を務めさせていただきます
飯塚啓和と申します。

さくら会は、順天堂大学の教育理念実現のため、大学と保護者との連携を密にし、教育効果の向上に資すると共に、併せて会員相互の親睦を図ることを目的としております。この目的達成のため主な活動としては、総会の開催、新入生保護者歓迎会の開催、保護者懇談会の開催、修学援助制度の運営、課外活動に関する助成、ほか会報の発行、広報活動、会員名簿の発行などを行っています。各学年5名で20名の保護者が運営委員となり役員会を行い、各事業を行っています。

平成24年春のさくら会の活動をご報告いたします。

1. 定例総会について

入学式前々日は爆弾低気圧で激しい雨・風でしたが、入寮日である前日からは桜も満開のうららかな陽気となり、4月5日（木）グランドプリンスホテル新高輪にて4学部合同の入学式が行われ、スポーツ健康科学部には332名の新入生が入学しました。

その後、会場を国際館パミール「北辰」に移して、「第35回さくら会定例総会」を開催しました。平日の木曜日にもかかわらず、184組286名の保護者の方々にご参加いただきました。

総会においては、平成23年度の活動報告及び収支決算、平成24年度の事業計画及び予算に関して役員会承認事項としてご報告致しました。また、24年度役員選任案についてご承認いただきました。

2. 新入生保護者歓迎会について

定例総会に引き続き、「新入生保護者歓迎会」を行いました。歓迎会では、小川理事長、木南学長にお越しいただきご挨拶を頂戴しました。この歓迎会では、保護者の方々に早く順大を知り楽しんでいただくということで、各学科毎先生方の紹介を各学科長から行って頂き、引き続き、運動部指導者会会長の佐久間先生の総合司会のもと各クラブのスタッフ紹介を行っていただきました。

会場では先生方と写真撮影をしたり、あちらこちらに先生方と保護者、保護者同士と懇談の輪ができ順大をより知る事ができ、安心していただけたことと思います。

さくら会は今まで数多くの保護者の皆様のご尽力により運営されてきました。

学生達の学業・スポーツ活動がより充実したものとなるよう、この良き順大の伝統を継承し、さらに発展できるように、大学と保護者のパイプ役として活動していきます。

皆様のご協力の下進めて行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（スポーツ健康科学部保護者会 会長 飯塚 啓和）

保健看護学部保護者会

新年度を迎え、保健看護学部第3回生となる新入生121名が入学され、3学年で計365名の学生がキャンパスに集まりました。改めまして、新入生、そして保護者のみなさま、ご入学おめでとうございます。

4月5日（木）、東京品川で4学部合同の入学式が挙行され、式典終了後に保護者会主催の保護者歓迎会を開催いたしました。平日ではありましたが、たくさんの保護者の方々にご出席いただき、盛会となりました。途中、小川理事長先生、木南学長先生にもご臨席いただき、新入生保護者のみなさまへ歓迎のお言葉をいただき、順天堂の一員になった実感が湧いたことと思います。さらに、学生アドバイザーグループの先生との懇談により、大学全体で学生の教育、指導を行っていくという体制をご理解いただき、安心してお子様をお任せできる気持ちになりましたのではないかと思います。

思えば1年前は、東日本大震災直後で、新入生、在学生の中にもご自宅が被災した方があり、大変心配されましたが、小川理事長先生、木南学長先生にご高配いただき、奨学金受給、学費減免の措置を受け、学業を継続出来たと聞いております。被災地域の復興・復旧にはまだまだ時間を要すると思いますが、保健看護学部の学生には、日々普通に生活ができて、普通に学業に取り組める環境にあることを感謝し、夢に向かって頑張ってもらいたいと思います。

5月15日の創立記念日に、学生部と学生自治会によるレクリエーション大会（球技大会）が三島市体育館で開催されました。今回は保護者も教職員チームに加えていただき、バレーボールと一緒に汗を流しました。今後ともこのような機会を設け、保護者会の交流を深めていきたいと思っています。

本年1月には、保護者会総会開催日に合わせて、「教員と保護者との懇談会」が開催されました。参加した保護者から大学への要望・意見が多数寄せられ、これに対し、大学側には施設・設備の面などでは多くの点に答应いただきました。

保護者会は2年目を迎え、いろいろな課題が見えてきて、活動範囲が広がりつつあります。今後も、保護者会と大学との話し合いの機会を多く持ち、一緒に学生の支援をして行きたいと考えておりますので、保護者のみなさまのご協力、ご支援をお願いいたします。

（保健看護学部保護者会 会長 川上 浩）

医学部後援会

6月16日（土）の24年度総会にむけて、2月25日（土）16時から順天堂大学本郷キャンパス8号館3番教室において役員会を開催しました。出席者は30名でした。

【報告事項】

1. （1）後援会での震災対応と寄付金の対応結果
（2）4月以降の後援会事務局人事と運営について検討など
三役会での検討事項の経過を白岩（会長）が説明しました。
2. 23年度の収支状況については吉川（副会長）が内容を説明しました。
3. 褒賞は募集方法等に工夫が必要と思われるので検討してみたいと報告しました。

【審議事項】

1. 後援会会則の変更（第4条会員の構成、第5条役員の選任、第12条総会の開催日時の特定）について

（1）（第4条）会員の構成

高齢会員の増加、総会案内の回答返信率が20%前後と低い状況など費用対効果の観点からも終身会員を見直し20年有期としたいと内容趣旨を説明したが、対応について会員の意思表示や、意思確認のアンケートを行うこと等、種々意見があり、さらに検討をして再度提案、審議することで了承された。

（2）（第5条）役員の選任

役員の選任については、欠員が生じたり、積極的に後援会活動を行いたい方も出てきており、学年単位で役員の入替ができるように改正したい、という趣旨を説明し了承された。

（3）（第12条）総会の開催日時の特定

総会については、原則毎年6月第4週の土曜日に特定して開催する案が了承された。ホームページを利用しての出欠の確認はさらに検討することになった。

2. 今後のホームカミングデーについて

後援会活動への理解を深めてもらい、多くの方々に顔を出していただきたいとの思いから、現方式に卒後1年目と3年目を加え実施することが了承された。

3. 順天堂創立175周年記念対策について

後援会としても応援し存在意義を示したい。基金などのプログラムを提案したい、と提案し了承された。

4. 平成24年度事業計画について

事業計画（案）に『大学建学175周年記念寄付にむけて募金などの検討をします』を加え、ホームカミングデーに卒後1・3年目会員を追加する案を平成24年度から実施することに決定し、事業計画（案）を了承した。

5. 学生のスポーツ・文化活動への支援について

大学で使途指定寄付金制度ができたことに対し、大学にとっても意味のある後援会でありたいという気持ちを表すため、今後学生活動支援を継続して行っていきたい、という趣旨を了承した。

6. 平成 24 年度予算案について

了承した。

(医学部後援会 会長 白岩 照男)

スポーツ健康科学部後援会【桜順会】

スポーツ健康科学部の後援会である「桜順会（おうじゅんかい）」の平成 24 年 1 月以降の活動状況と平成 24 年度前半の行事予定を併せてご報告いたします。

1. 活動状況

(1) 桜順会賞の決定

2 月の役員会において桜順会賞の該当グループを選出いたしました。ベストサポート賞は、日本インカレを制した体操競技部スタッフ、1 部昇格を果たしたバスケットボール部女子スタッフの皆様、ボランティア賞は、清掃活動をしている柔道部、広報活動に励んでいる順大スポーツ編集部、第 62 代啓心寮三役及び室長（23 年度卒業生）の皆様へ授与することが決まりました。

(2) 卒業式参加

23 年度の卒業式に副会長宇都宮・勝原両名が出席させていただきました。この席でスポーツ健康科学部の学生総代である下村さんより、先生を慕い感涙に咽ぶような思い出のある、非常に印象に残る答辞が述べられました。

(3) 卒業記念パーティーに出席

スポーツ健康科学部の卒業記念パーティーに出席させていただき、桜順会賞を受賞した 5 団体に記念品を贈呈いたしました。

(4) 桜順会の入会状況について

「入会のご案内」を平成 24 年 2 月下旬に発送し、新会員を募集しましたが、例年より少ない加入状況となっております。今後とも、ご入会につきまして皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2. 平成 24 年度前半の行事予定

(1) 第 14 回桜順会定例総会

①日 時 平成 24 年 6 月 16 日（土）15：00～

場 所 順天堂大学本郷キャンパス

②総会後の特別講演

「社会とスポーツの関わりについて」を企画中

(2) 第 9 回桜順会親睦ゴルフ大会

開催日 平成 24 年 7 月 30 日（月）

場 所 京カントリークラブ

(スポーツ健康科学部後援会 会長 小森 常誉)

平成 23 年度順天堂大学医師会・医学部 ベストチューター賞

3月16日（金）にグランドプリンスホテル新高輪国際館パミールにおいて、医学部謝恩会でベストチューター賞の表彰式が執り行われました。

これは医学部における基礎・臨床教育に貢献した教員を順天堂大学医師会と順天堂大学医学部の共催で表彰する制度であり、候補者は医学部6年生のアンケート等を参考にして選出されております。

ベストチューター賞は、平成13年度より執り行われ11年目となります。今年度は、内科系は小児科学

大塚宜一先任准教授、外科系は皮膚科学込山悦子准教授、基礎系は解剖学・生体構造科学工藤宏幸准教授が、選考委員会を経て順天堂大学医師会理事会にて受賞者として決定されました。

当日、医学部卒業生が見守る中、長岡功生化学第二教授（医師会理事）の司会進行で表彰式が始まり、小川秀興理事長（医師会長）よりお祝いのお言葉を戴きました。その後、小川秀興理事長（医師会長）から表彰状および副賞が受賞者一人ひとりに手渡され、卒業生および出席者より大きな声援と拍手がおくられ大変盛り上がる表彰式でした。



順天堂大学医師会事務局
順天堂医院医療連携室内
課長補佐 中島 宏明

新入生キャンプを終えて

医学部 1 年
山田 泰平

順天堂大学の入学式は新高輪グランドプリンスホテル飛天の間で行われました。学校の講堂でささやかな入学式を迎えている他大学と比べて面白そうな大学に入ったと胸を高鳴らせている人もいれば、こんな派手な世界に足を踏み入れてしまって大丈夫なのだろうかと不安になった人もいたことでしょう。

幸いにも後者の人たちの不安はすぐに一蹴されることになります。そう、酒々井にあるさくらキャンパスは「世界の果て」と呼ばれるほど田舎なのです。見渡す限り田んぼと山に囲まれ、最寄りの喫茶店まで約20分かかります。私たちはなぜここで集団生活をしているのでしょうか。その答えの糸口は新入生キャンプにあると思いました。

『Freshperson's Camp: Jin (仁) Seminar』という新入生キャンプ（FC）は私たちが入学してまもなく行われました。このキャンプでは私たちのために、教職員や上級生、卒業生も多数参加してくださいました。「相互理解」をキーワードに昭和58年に始まり今年で30回を迎えました。同じように医学を志し、生涯の仲間となるクラスメイトとの交流や友情を深めることが目的です。一日目は順天堂大学を卒業した若手医師3人による講演と、班ごとに分かれて野外

研修と呼ばれるレクリエーションが行われました。二日目には、芥川龍之介の小説、『藪の中』が与えられ、それを読んで思ったことを班ごとに議論し、模造紙にまとめ発表するというものです。

私は当初、この内容ならばわざわざ場所を移動してFCを行わなくとも、寮で生活しながらでも十分行えたのではと思いました。FCがなくとも、一年間寮で生活を共にしていれば自然と交流は深まると思ったからです。しかし、このFCでは、まず寮生活のはじめに、医学生として学ぶ姿勢を整えるといった目的がありました。それらはおそらく、友情や信頼などといった人間関係を築いて行く上で必要不可欠な協調性、自律心、礼儀、他者への配慮などといった能力を身につけることだと思います。具体的には、飲酒・喫煙など最低限の社会のルール、集団行動においての遅刻、建前と本音の境界線、目上の人に対する接し方などです。同時に、このキャンプにおいて、現時点で私たちがどの程度ルール・マナーを守ることができ、且つその重要性を理解しているかを私たち自身、そして教職員の方々が認識する機会でもあったのかもしれない。もちろんこのような内容は二十歳前後の私たちにとっては当たり前であり、この程度のことは出来ていると思う人もたくさんいると思います。しかし、一度の失敗が大きな問題を引き起こすことも事実です。信頼を築くことは大変でも、信頼を失うことは比較にならないほど容易です。

このキャンプが楽しかった人、つまらなかった人、ルールを守れた人、守れなかった人、感想はそれぞれ違うと思います。ルールやマナーを守れなかった人がいた時は、当事者を含んだ全員が「何故そのような行動をしたのか」と考え、それを教訓として活かさなければならない、学生とはいえ行動に対する責任が伴ってくることを痛感しました。医学を志していること、また将来医療従事者になるなどといったこととは関係なく、一個人として社会人となり人々と関わって行く上で必要なこれらの能力を私たちは既にある程度は身につけているはずです。しかし、病を抱える患者さんに関わる職業を選択した私たちは人並み以上に規則や信頼、他者への配慮といったものを意識する必要があるはずです。そういった意味でも私たちはこの新入生キャンプをはじめとする、さくらキャンパスでの一年間を、自分自身を磨く貴重な機会と受け止め充実したものにしていきたいです。そして、私たちが素晴らしい大学生活を送り始めることができたのは、順天堂大学の教職員や上級生の方々や保護者の方々などたくさんの方のおかげです。私たちを支えてくださる全ての方々への感謝を忘れず、今後の行動で感謝の気持ちを表していきたいです。

順天堂大学関係資料ご提供のお願い ～ 順天堂史編纂にあたって～

医史学研究室
特任教授 酒井 シヅ

○順天堂関係者の皆様へ

現在、順天堂創立 175 周年を記念して順天堂史を編纂しています。順天堂に関する情報や資料をお持ちの方は、順天堂史編纂委員会事務局（医史学研究室）へご連絡下さい。また、講座・教室史等についても是非ご提供をお願い致します。

○佐藤尚中先生の顕彰碑について



谷中霊園：甲 4 号 7 側

幕末から明治維新にかけて西洋医学の発展に貢献された順天堂（医学塾）第二代堂主、大学東校（東京大学医学部の前身）初代校長などを歴任された佐藤尚中先生の顕彰碑が都立谷中霊園にあり、左大臣・大勲位 有栖川宮熾仁（ありすがわのみや たるひと）親王が篆額「故大学大博士佐藤尚中の碑」を記されております。

碑石の裏面には建碑寄付者、発起人、幹事など当時の医学に関わっていた 386 名（その多くは順天堂門下生）の名前が記されております。

この 386 名にゆかりの方、また、佐藤尚中先生や順天堂に関係する史料を保存されている方がおられましたら、下記までご連絡を頂ければ幸いです。

※碑石の文面は本学 HP にてご確認いただけます。

順天堂関係資料に関する お問い合わせ・連絡先

連絡先 順天堂史編纂委員会事務局（医史学研究室）
E-mail juntendo-shi@juntendo.ac.jp
TEL 03-5802-1052
FAX 03-5813-1592

編集部からのお知らせ

●ご感想等の宛先は・・・

右記に記載の「順天堂だより」編集担当：文書・広報課までお願いいたします。

●スポーツ健康科学部（旧：体育学部）をご卒業された方々からの送付先変更・発送中止の連絡は啓友会事務局（スポーツ健康科学部同窓会）で承っております。

TEL 0476-98-1031 FAX 0476-98-1174

E-mail keiyu@sakura.juntendo.ac.jp

ご連絡はお電話・FAX・E-mailいずれかの方法でお願いします。

学校法人順天堂 広報誌 「順天堂だより」265号(2012.6)

- 発行 学校法人順天堂 <http://www.juntendo.ac.jp>
- 編集 総務局総務部文書・広報課
〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1
TEL:03-5802-1006(直通) FAX:03-3814-9100
E-mail: bunsyo@juntendo.ac.jp
- 発行日 平成24年6月18日発行
- 印刷・製本 ダイト印刷株式会社
- 発行部数 18,000部

順天堂のパリジェンヌたち

順天堂には、日本とパリを往復している人がいます。二交代勤務の看護師の皆さんです。日勤帯と夜勤帯の始業時刻の差は、約8時間。これは、日本とフランスの時差に相当します。夜勤のたびにフランス時間で生活し、明けるとまた日本時間に戻る。このようなサイクルを続けています。そのライフスタイルは、国際線のキャビン・アテンダントと同じです。

夜勤明けの眼には、神田川はセヌ川に、湯島聖堂はノートルダム寺院に、スカイツリーはエッフェル塔に見えるかもしれません。無理ありません。夜勤帯に体内時計がフランス時間にセットされているからです。

精神科医の立場からすると、メンタルヘルスの基本はとても単純です。①十分量の睡眠、②睡眠相（睡眠・覚醒リズム）の安定、③アルコールを飲みすぎないこと、以上3点だけです。これらの基本さえ押さえておけば、多少のストレスがかかってもメンタルは大崩れしません。

ところが、順天堂のパリジェンヌたちの場合、どうしても②の実現は難しい。そうすると、①によって②を補う方法を、個人の体調に応じて考えていくことが大切でしょう。

ひとつの方法は、夜勤の前日に意識的に遅くまで起きているようにし、体内時計を少し遅らせ気味にすることだと思います。そして、翌朝（夜勤入りの日の朝）は思う存分朝寝坊。何なら「昼過ぎまで寝てもいい」くらいのつもりで気合を入れて眠り続けます。起床時刻は遅ければ遅いほど体内時計がパリ時間に近づきます。そして、夜勤に入るときには、「これ以上眠れないくらい眠った」状態で入ります。そうすれば、夜勤は何とか乗り切れます。

問題は、夜勤明けの日中をどう過ごすかでしょう。お若い看護師さんなら眠らないで、外出して、自由な一日を楽しんで、疲れて帰宅して、そのまま早め就床して、一気に体内時計を日本時間に戻すことでしょう。睡眠不足をその後の代償性の過眠により一晩で挽回するのは、まさに若さの特権です。

ベテランになるほど、不眠後の代償性の過眠がとれなくなります。その分、夜勤明けの日中に少し昼寝せざるを得ないでしょう。ただ夜勤明けの午睡が長すぎると、体内時計がなかなかフランス時間から日本時間に戻りません。ですから、日中の睡眠を極力短くし、特に、午後3時から午後6時の時間帯を眠らないで耐えます。その代わり、夕方の就床を早くします。午後6時でも7時でも構いません。そして、できるだけ長く眠ります。午前2時まで眠れれば、時差5時間のハワイ時間に相当します。もう少しで日本です。こうなると、翌日は、休日ですから、日中眠らないで、夕食後に就床すれば、次の日が日勤だとしても、余裕をもって対応できます。

そして、体調を整えて、日勤の朝、本郷の坂道をさっそうと歩いてください。ちょうど、モンマルトルの丘を下りるパリジェンヌたちのように。